

令和4年度市政モニター
「ぎふCITYウォッチャーズ」
第1回調査結果

テーマ

子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について及び
岐阜市環境基本計画の改定について

目次

- 1 調査目的
- 2 調査期間
- 3 調査項目
- 4 回答者属性
- 5 結果の概要
- 6 項目別の結果
- 7 今後に向けて

お問い合わせ先

- (1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について（問 1～問 8）

教育委員会 教育政策課 TEL：058-214-7109／MAIL：kyouiku-sei@city.gifu.gifu.jp

- (2) 岐阜市環境基本計画の改定について（問 1～問 15）

環境部 環境政策課 TEL：058-214-2175／MAIL：kankyo-sei@city.gifu.gifu.jp

1 調査目的

- (1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について

- ① 「第 4 期岐阜市教育振興基本計画」の策定に向けて、地域と学校の協働についての調査を実施。
- ② ①の結果を基に、今後、本市の教育が目指す地域と学校の協働の姿を検討していく参考とする。

- (2) 岐阜市環境基本計画の改定について

- ① 「岐阜市環境基本計画」の改定にあたり、環境に対する考え方や取り組み状況などを調査。
- ② ①を参考に計画を改定するとともに、取り組みの推進や改善を図る。

2 調査期間

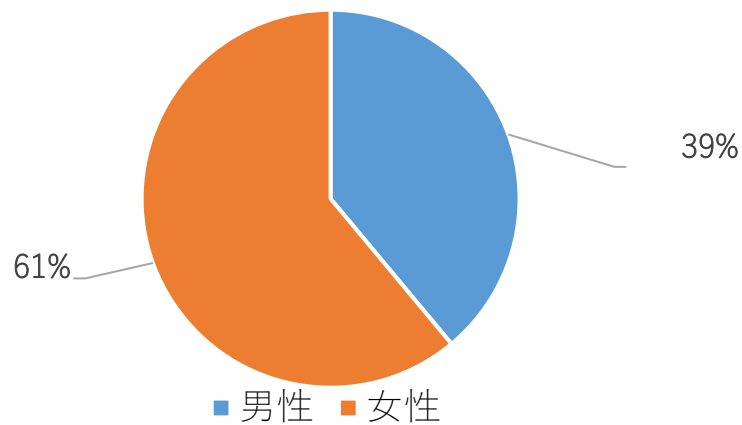
令和 4 年 7 月 11 日（月）～7 月 25 日（月）

3 調査項目

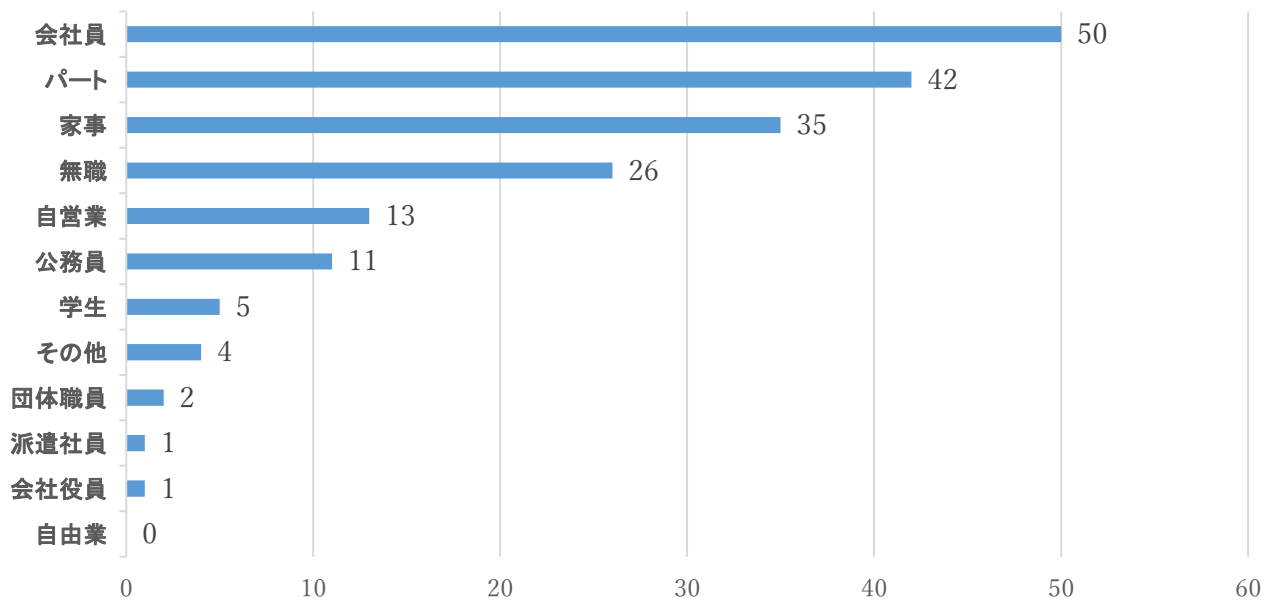
- (1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について（問 1～問 8）
- (2) 岐阜市環境基本計画の改定について（問 1～問 15）

4 回答者属性

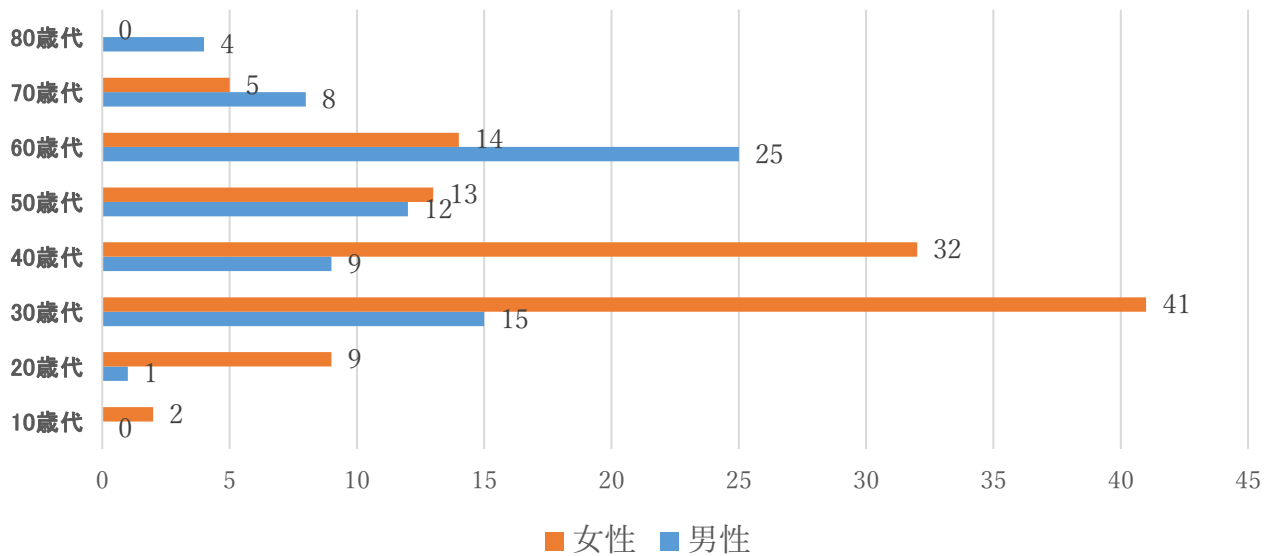
令和4年度市政モニター第1回回答者 性別別割合 n=190



令和4年度市政モニター第1回回答者 職業別割合 n=190



令和4年度市政モニター第1回回答者 年代別割合 n=190



5 結果の概要

(1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について

多くのご回答をいただき、ありがとうございました。

今回のアンケートで、本市における子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について、回答者の半数以上（54%）が、これまで地域住民や保護者の立場から、何らかの活動に協力したり、従事した経験があるとともに、その活動内容も大変多岐に亘るものであることが分かりました。

一方で、半数近くの方は活動経験が無く、また質問2において「地域の教育力」について弱くなっていると答えた割合が70%を超えていること、そして、質問3において「コミュニティ・スクール」についての認知度が16%に留まるなど、課題視すべき事柄も明らかになりました。

しかしながら、質問5では約70%の方々が、自らの得意なことやキャリアを生かして子どもたちに教える取組みについて前向きな参加意向を示し、質問7でも76%の方々が、地域が子どもたちの教育の担い手として関わることを重要だと回答しています。

これらのことから、地域と学校の協働について、その重要性を認識し、潜在的に参加意欲を持つ地域住民は少なくないが、これらの人材にどのような役割、機会に活動に参画してほしいかを具体的に示したり、実際の活動へとコーディネートするなど、地域の貴重な人材が持つ学びの可能性を、子どもたちの学びへと繋ぐ取組みをより一層、推し進めていく必要があると考えています。

(2) 岐阜市環境基本計画の改定について

「地球温暖化」の言葉の認知度は高く、また、「循環型社会」や「生物多様性」も半数以上、「絶滅危惧種と外来種」も約半数が知っているという回答した一方で、「岐阜市環境基本計画」や「環境重点地区」という岐阜市の取り組みに関する言葉の認知度は約2割に留まり、あまり浸透していないということがわかりました。

「地球温暖化対策」「ごみ減量」「自然環境保全」に関する市民の取り組み状況については、「ごみ減量」に取り組む方が最も多く、「ときどき取り組んでいる」を含めて95%の方が取り組んでおり、次いで、「地球温暖化対策」に取り組む方が83%、「自然環境保全」に取り組む方が32%という結果から、「ごみ減量」は、プラスチックや雑がみの分別が浸透しており、生活に身近で取り組みやすく、逆に、「自然環境保全」は、あまり身近ではなく取り組みづらいと推察されます。

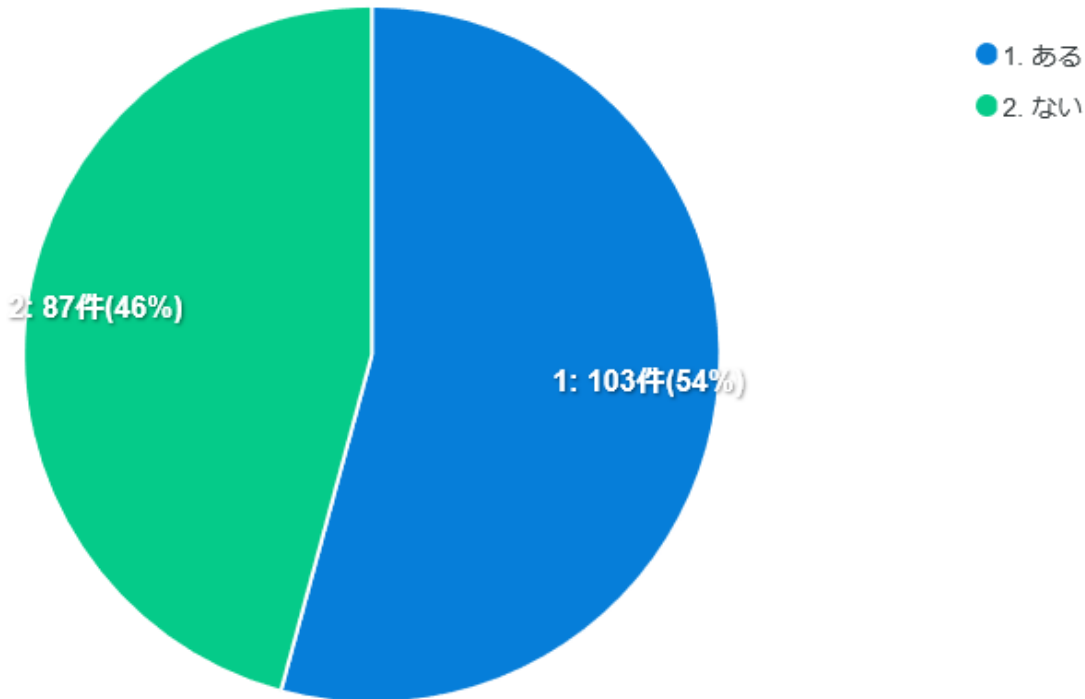
「地球温暖化対策」「ごみ減量」「生物多様性の保全」「環境教育」に取り組むことについて、どのように考えるかという問いに対しては、「重要な課題なので、優先的に取り組むべきだと思う」と回答した方は、「地球温暖化対策」と「ごみ減量」がともに66%、次いで「環境教育」が57%、「生物多様性の保全」が37%でした。一方で、「重要な課題であるが、先にやるべきことがある」と回答した方は、「地球温暖化対策」が31%、「ごみ減量」が33%、「環境教育」が40%、「生物多様性の保全」が53%でした。この結果から、「地球温暖化対策」と「ごみ減量」が同等に、重要かつ取り組むべき課題であるという認識だとわかりました。

「環境教育」に関しては、多くの方がこれまで環境について話を聞いたり、学んだりしたことがあると回答し、その手段として、「学校で学んだ」と回答した方が43%で最も高かったことから、学校が果たす役割が大きいと推察されます。

6 項目別の結果

(1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について（問1～問8）

質問1. あなたはこれまでに、地域住民や保護者の立場から、学校で行われる様々な活動や、地域で行われる子ども向けの活動などに、協力したり関わったりした経験がありますか？

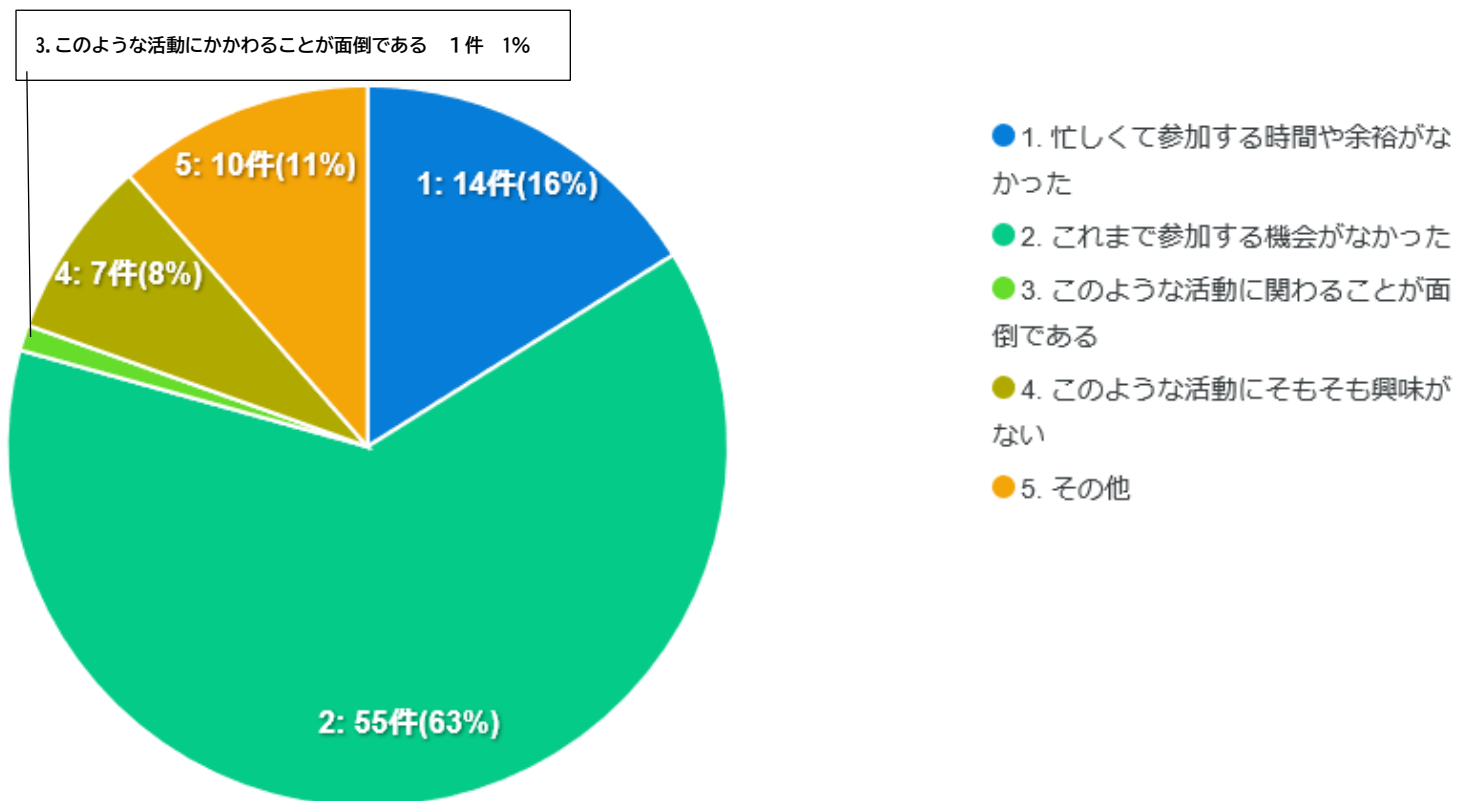


質問1で「ある」と回答された方の活動例（一部抜粋）

- 自治会役員、PTA 役員、子ども会役員、父親委員、婦人会役員
- スポーツ少年団コーチ、部活動指導者、部活動の保護者クラブ
- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員
- 登下校の見守り、旗当番、防犯パトロール活動
- 学校の美化活動、学校プール掃除
- 地域清掃活動、公園徒渉プール清掃、見守り
- ラジオ体操当番、夏休みプール当番
- 地域のあいさつ運動
- 市民運動会、歩け歩け運動
- 地域の祭礼行事、子ども神輿
- インリーダー研修、ボーイスカウトの活動
- 防災訓練
- 学校授業の町たんけん引率ボランティア
- 小学校での読み聞かせボランティア
- そろばんやミシンの講師ボランティア
- 小学校の図書返却ボランティア、書写ボランティア
- 小学校のクラブ活動（飛行機づくり、竹とんぼづくり）

- 学校授業で野菜の作り方授業
- 学校と地域の米づくり体験活動
- 小学校や子ども園での料理体験教室
- 学校での水防授業、防災士として講話
- 学校授業での戦争の体験談講話
- 授業での職場体験、キャリア教育の講師
- 緊急時の下校訓練
- 幼稚園の預かり保育ボランティア
- 地域のベビーサークル、子ども食堂での活動

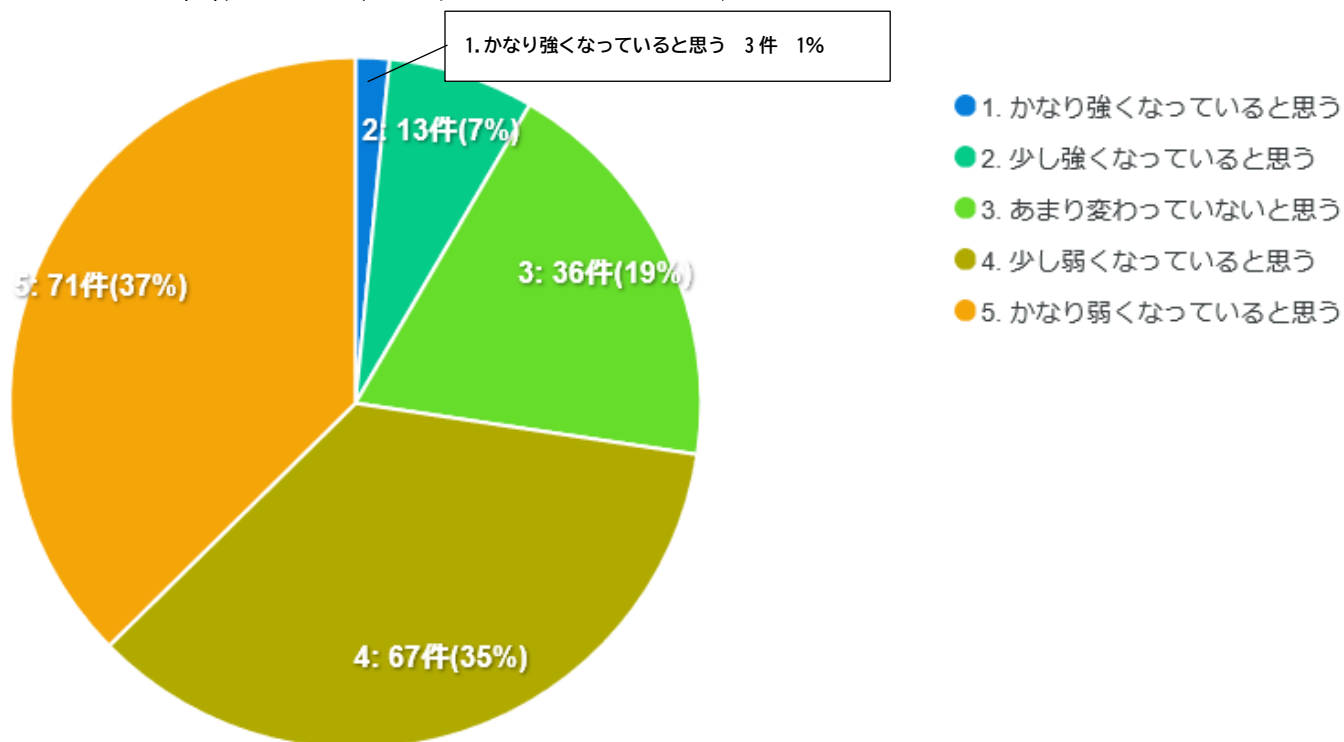
質問1で「ない」と回答された方にお聞きします。その理由をお聞かせください。



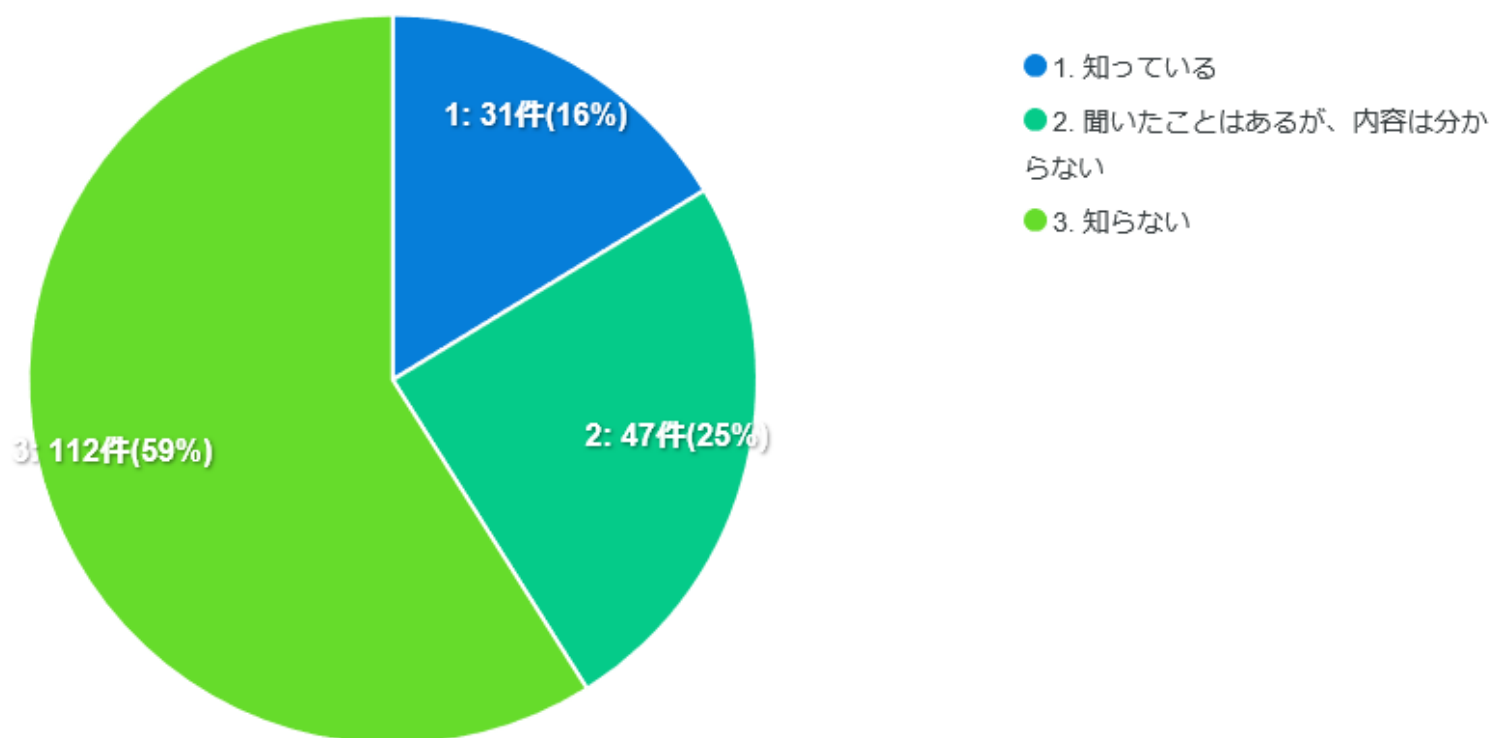
その他（一部抜粋）

- 子どもがまだ小さいので参加できない、地域に対象となる子どもがいない
- 家族が別で参加しているか
- どんな活動があるのか知らない、行事のお知らせがない、コロナで活動自体があまりない

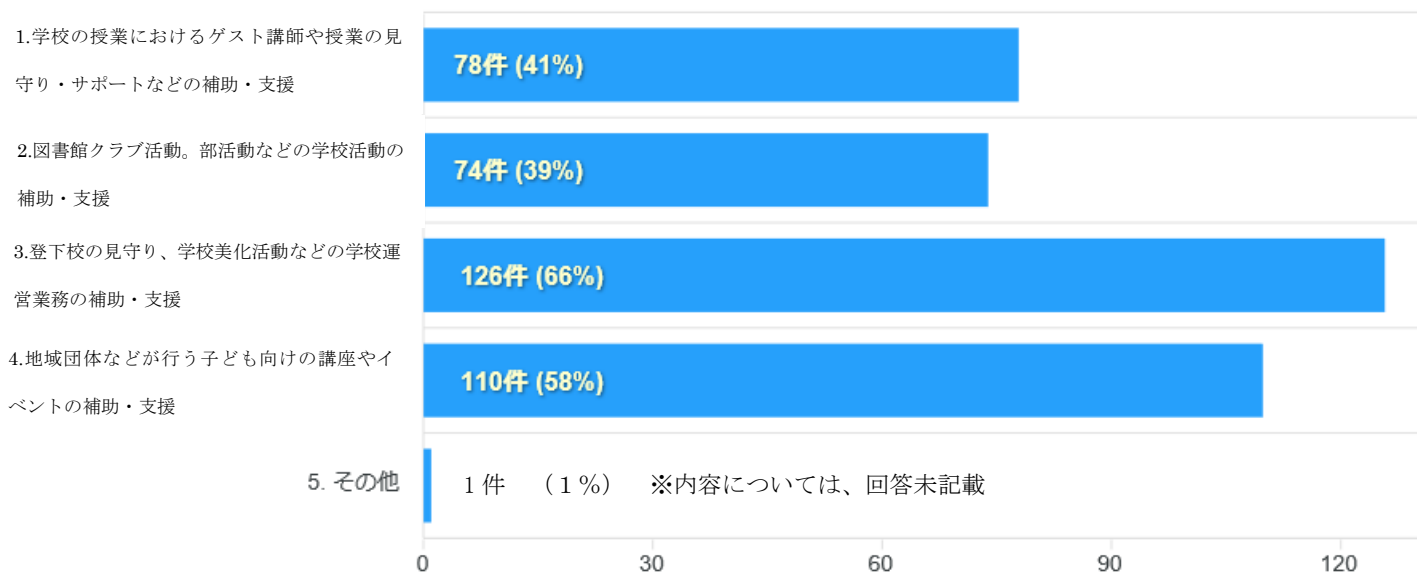
質問2. 近年、近所や地域と関わる機会が減り、関係が希薄化していると言われますが、あなたは、地域（地域住民）が子どもたちの学びや成長に関わり役割を果たす「地域の教育力」について、昔と比べて今はどうなっていると思いますか？



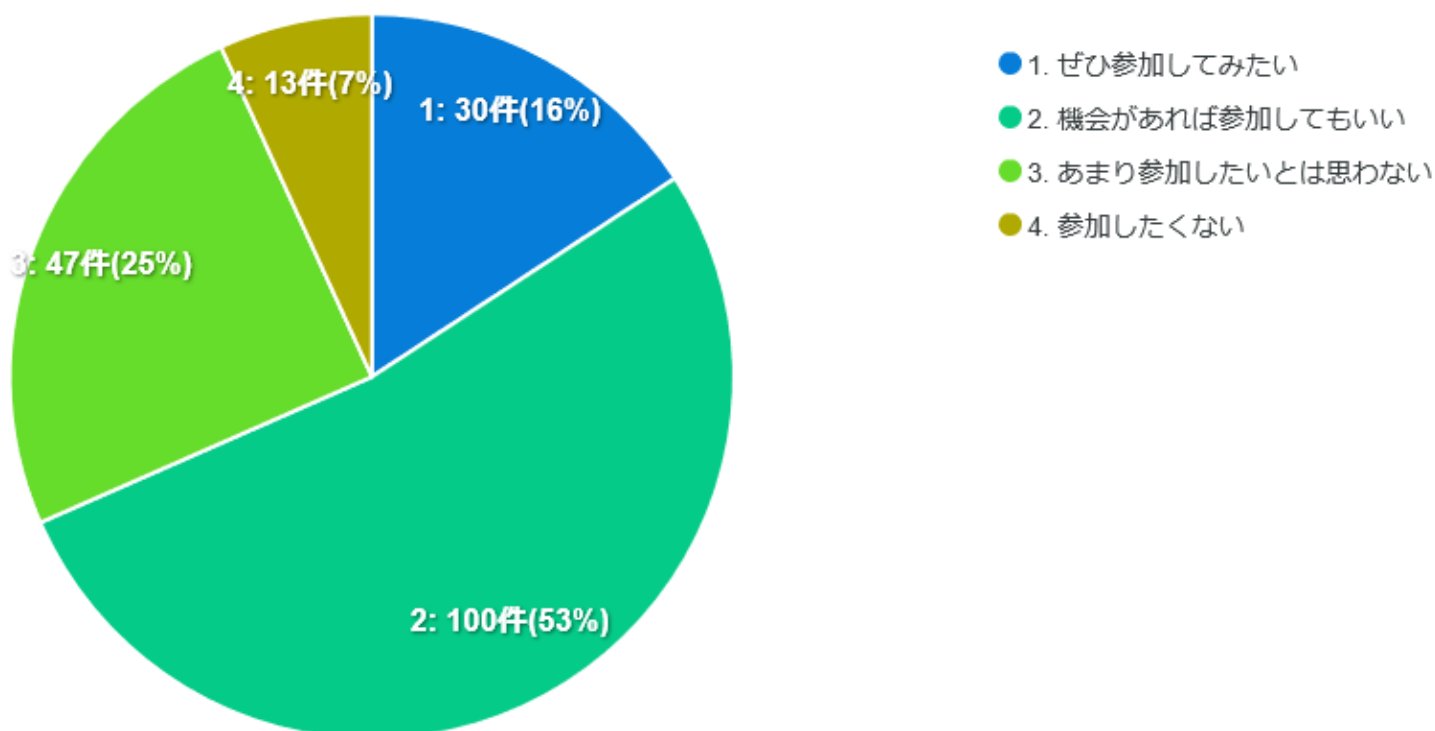
質問3. あなたは、地域（地域住民）と学校が協働し、子どもたちの豊かな学びや健やかな成長を一緒に支えていく取組みである「コミュニティ・スクール」という活動を知っていますか？



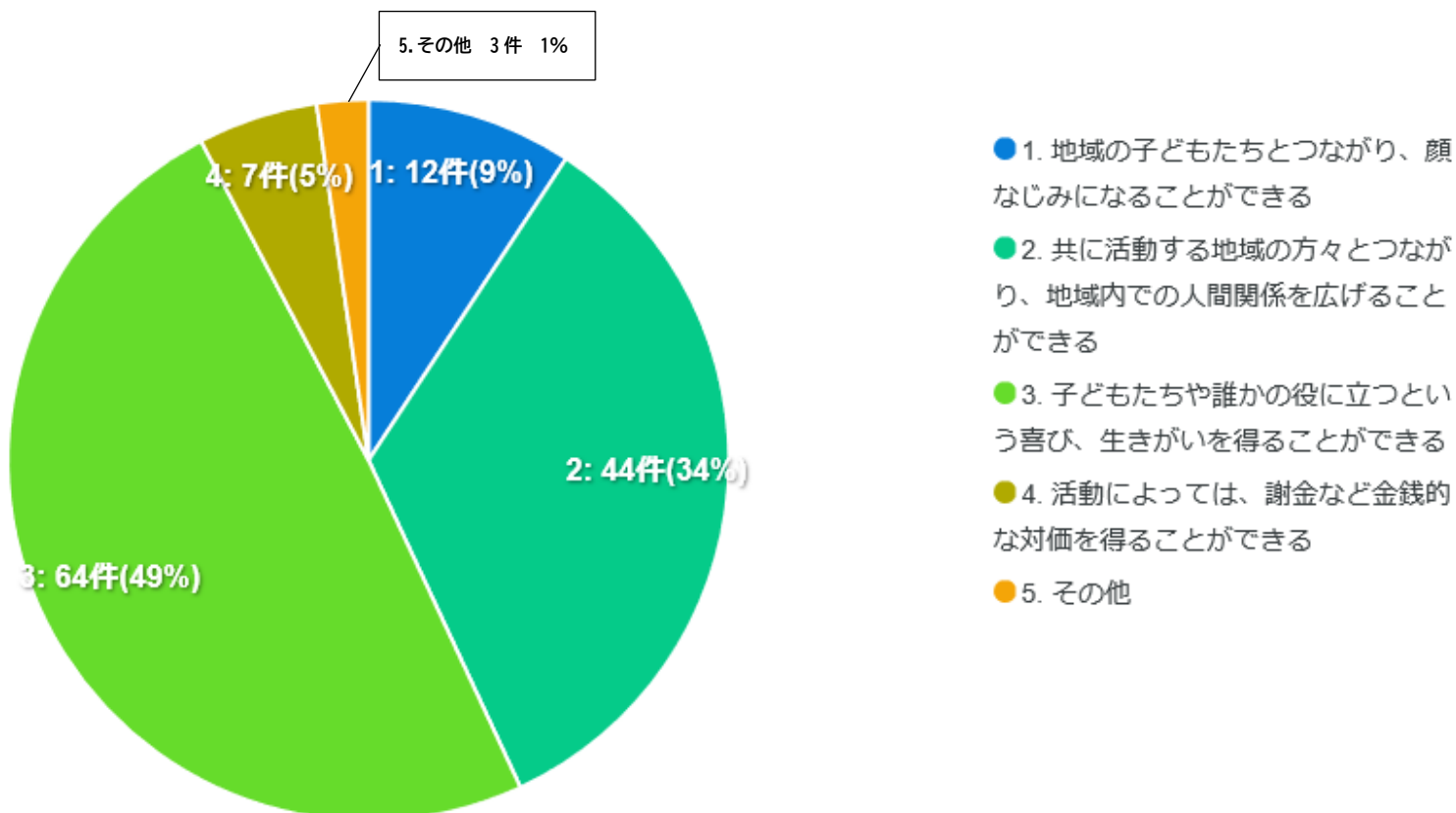
質問4. 子どもたちの学びや成長のために、あなたが地域住民として協力できること、関わることとして、例えばどんなことがあると思いますか？（当てはまるものを全て選択）



質問5. もし、あなたの趣味や得意なこと、仕事で身につけた技能やキャリアなどを生かし、それを学校や地域で子どもたちに教えたり話したりする機会があったら、参加してみたいですか？



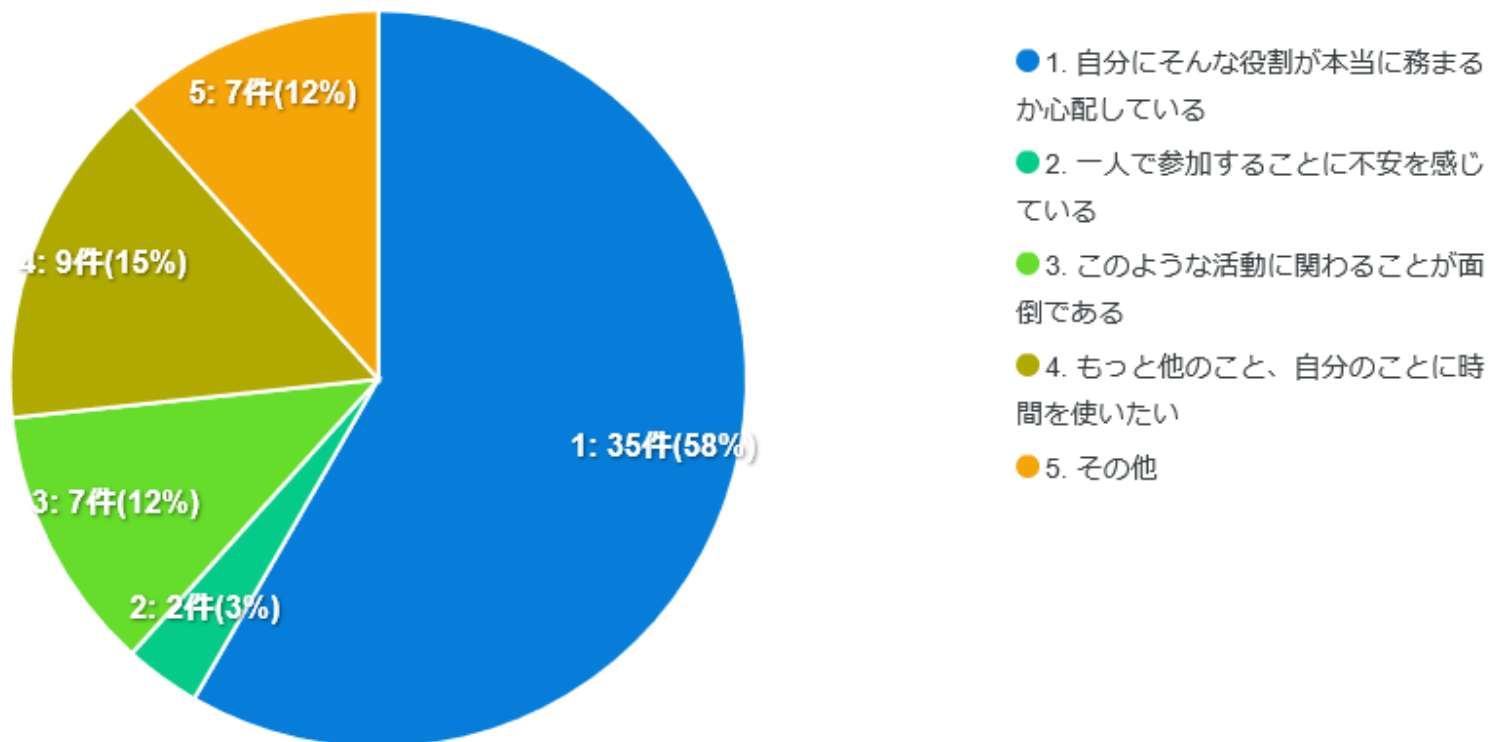
質問5で「ぜひ参加してみたい」もしくは「機会があれば参加してもいい」と回答された方にお聞きします。このような活動に参加することで、自分にとってプラスになることとして、どんなことがあると思いますか？（最も当てはまるものを一つ）



その他〈一部抜粋〉

- この歳なので、自分のプラスは考えない
- 子どもたちの役に立ちたい
- 今時の子どもの考え方を知るなど、自らも成長できる

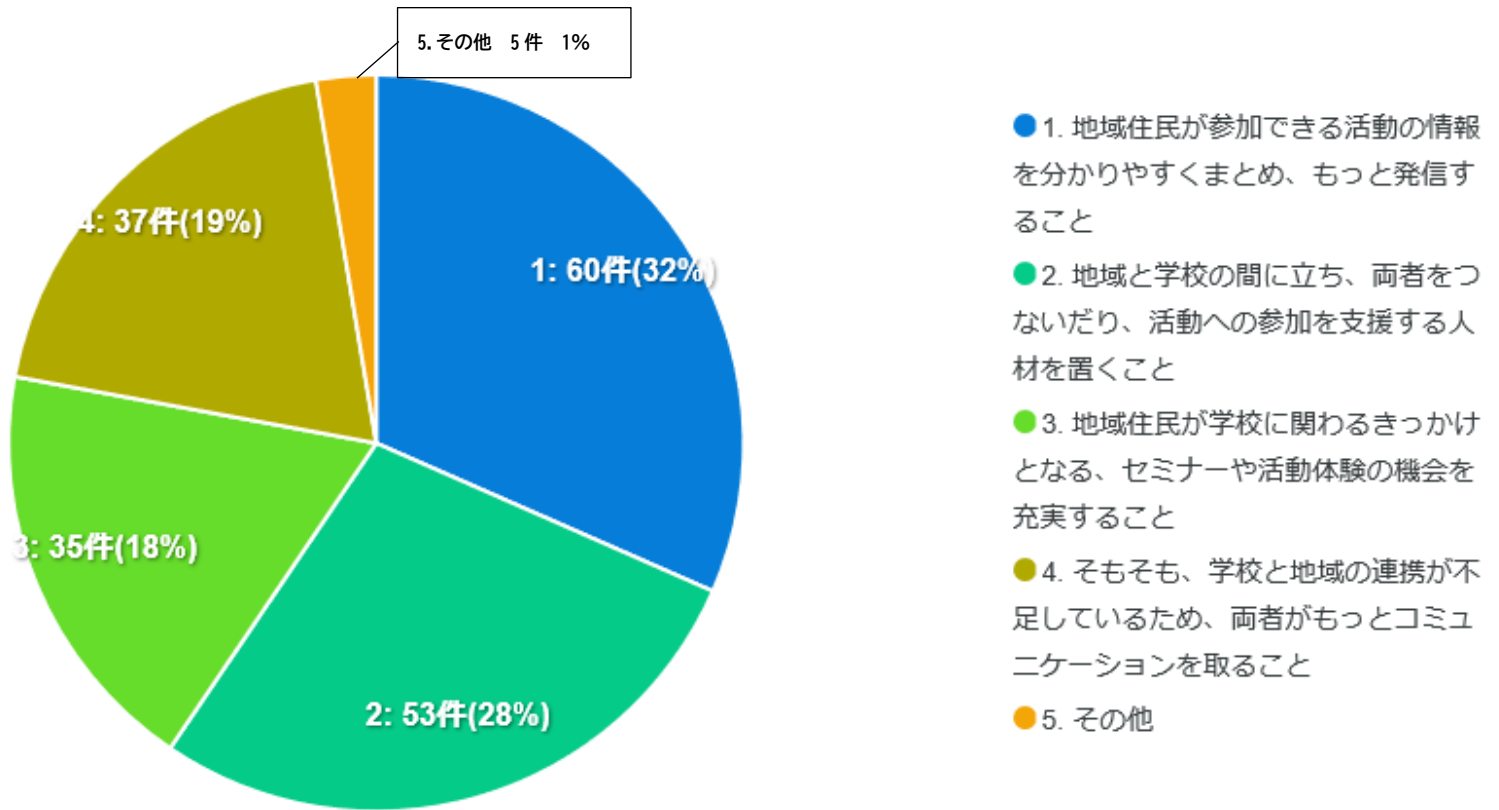
質問5で「あまり参加したいとは思わない」もしくは「参加したくない」と回答された方にお聞きします。このような活動へ参加することをためらう理由として、どんなことがありますか？
(最も当てはまるものを一つ)



その他〈一部抜粋〉

- 年齢や健康上、難しい
- 仕事が忙しく、時間を割くのが難しい
- 参加時の事故に対する責任がある
- 子どもがいないので、実感を持ってない
- 人前で話すのが苦手、サポートなら可
- 趣味特技がない

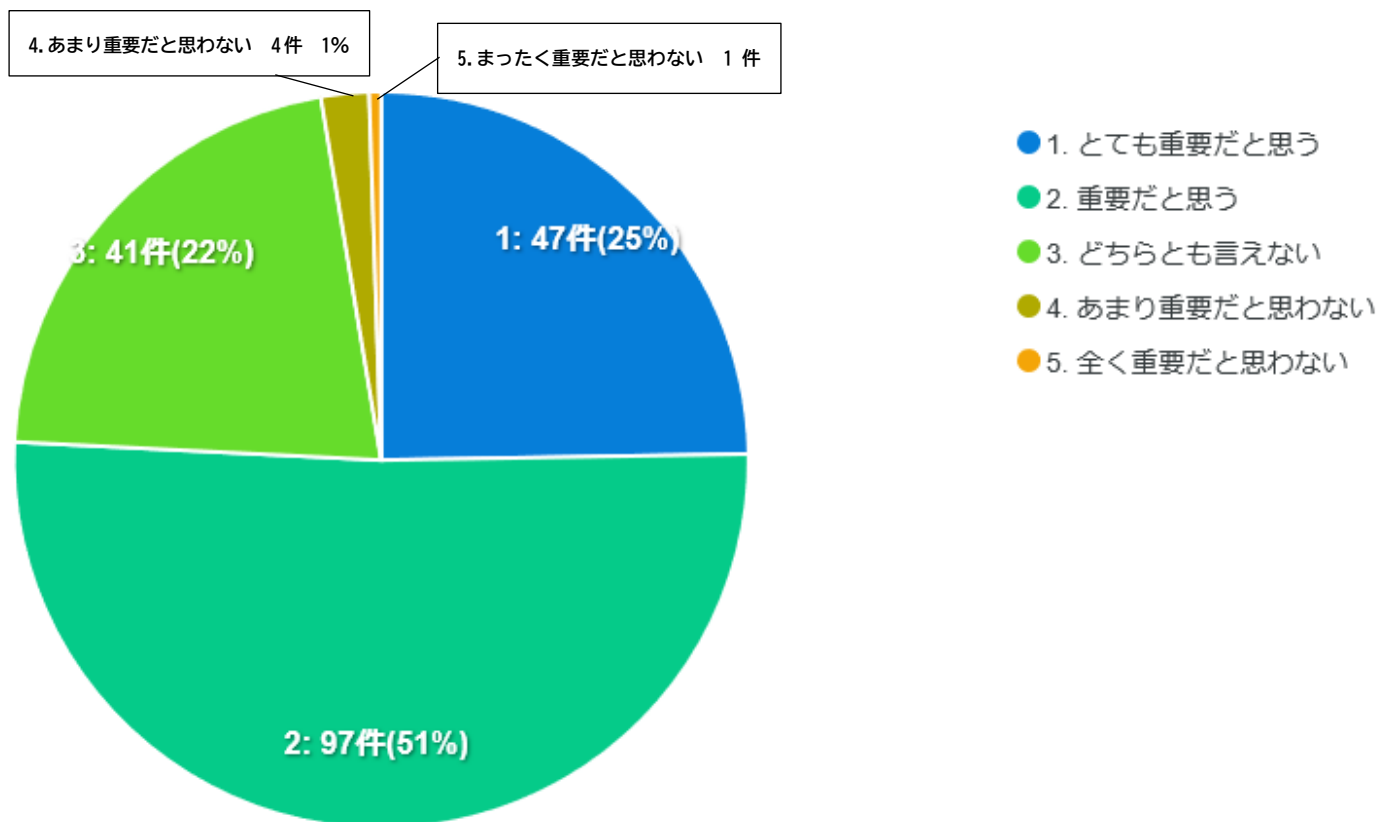
質問6. 私たち教育委員会は、もっとたくさんの地域の方々が学校とつながり、子どもたちの学びや成長に関わっていただけるようにしていきたいと考えています。このような活動に、より多くの地域住民の方々に参画してもらうために、どんな取り組みが必要だと思いますか？（最も当てはまるものを一つ）



その他（一部抜粋）

- 学校が先にこういうことをやってほしいという希望や提案を行い、その内容に合う人を募集する仕組みにすれば、私たちも手を上げやすい
- ボランティアに頼らず、対価を支払う形に整えてほしい。他に就職しなくても生活ができる、仕事としての活動となるとよい
- 協力者も多忙なため、そのフォローが必要である
- 学校側の負担は小さくないと想像する。また子育て世帯だと、家事や育児、仕事、学校役員、地域役員など大変多忙である。地域住民と学校がつながりを持つことは望ましいと思うが、目的ありきで学校現場や家庭の現状を捉えて整理して進めていく必要があると感じる

質問7. 地域（地域住民）が、学校とともに子どもたちの教育の担い手として関わることについて、どの程度重要だと考えていますか？



質問7の回答として、そう考えた理由教えて下さい。

「とても重要だと思う」「重要だと思う」と回答された理由（一部抜粋）

- 子どもたちの教育は、机上で学ぶことばかりではない。年齢や育った環境の違う人たちと触れ合うこと、話を聞くこと、ともに何かを成し遂げるために協力し活動することが、生きていくうえでの大きな経験になる
- 未来を担う子どもたちは地域の宝であり、大人たちの夢そのものである。子どもたちの周りには信頼するに足る大勢の大人がいるんだという実感を持てることにより、子どもたちは失敗しながらも、健全な成長を遂げていくことができる
- 地域の人から教えていただいたことや、顔なじみになる事で登下校の時や普段の生活で声をかけてもらうなど、大人になるまでにとても大切なコミュニケーションを身に着けることができたので、体験を通じて学べる機会を学校と連携して行ってほしい
- 子どもたちの教育には、「社会の中での人との接し方」を学ぶことが大切だと考える。地域住民との活動（実践）を通し、身をもって学ぶことが良い機会だと思う
- 詰め込み教育の弊害を避けて、広く徳育というものを教えることができると思う
- 学校という狭い世界で学び続けると外の世界が分からなくなるので、世の中の事をもっと知って見聞を広めてほしいし、先生も学びがあると思うから

- 人生の先輩である地域住民の方々から、学校生活以外での生きた社会とのかかわり方を学べるから。様々な家庭環境が生じている中で、人との触れ合いによりその後の豊かな人格形成が導かれていくと思うから
- 子どもたちにとって、様々なパターンの人生の先輩が身近にいることが分かり、自分の将来や人生像を考えたり、具体的に行動することができるから
- 子どもは単に家庭だけでは育たないし、地域全体で子どもを育て見守ることで、家庭ごとの孤独感を少なくできると思うから
- 学校だけでは手が回りきっていないし、子どもに対する支援、サポートが不十分な状態であるように思う。声をかける大人や地域の大人達と関係を持つことで、みんなの事をしっかり見ていると示す事にもなるし、少しばかりかもしれないが、子どもたちに安心感を与えられるのではないかと思うから
- 地域住民が子どもたちと密に関わることで心の育ちがあると思う。小さな不安に気付いてあげること、誰かに頼れる、一人ではないと感じられるメリットがあると思う
- 子どもを大事にすることは未来につながると思う。相互が理解し合うことで、支え合った良い未来が待っていると思う
- 核家族化が進み、子どもたちが人と関わる機会が減っているので、学校での活動を通して地域の人と関わり関係を築いていくことが必要だと思う。日頃から関係を作っておくことで、例えば災害があったときもお互いに助け合えるし安心だと思う
- 子どもたちも地域の一員として、地域の人たちと一緒に活動をしていくことで、地域を愛することにもなり、将来の地域の担い手ともなる
- 一般教科も大事だが、地域学というものも学んでもらいたい。そのためにも地域が学校とともに子どもたちの教育の担い手として関わる事は大事である
- 個人が大事にされている現在、どうしても自分を中心に考えがちになる。個人も大事であるが、人と人が上手く生きていく術を学ぶことも必要だと思う。もっと子どもを見て、褒めたり叱ったり、認める事をすべき
- いじめ、不登校・引きこもり、ヤングケアラー、幼児・児童虐待、ネグレクト等、子どもたちを取り巻く社会問題の解決には、地域の良識ある大人達の関与、参加が、ある程度必要であると思う
- クラブ・部活動補助で教職員の負荷軽減が図れる
- 学校の教育だけでは限界があるように感じる。特に金融、経済やデジタル化についての制度や分野は、一般の会社等に比べ大きく差が開いており、また多様化が進展していく社会、多様な家庭環境がある中で関わる大人が親と教員だけでは、多様性に対応できない。ただし、地域住民の子どもへの関わり方も不適切だと困るので、社会全体が子どもを中心に考えるようになるといいと思う
- 地域の理解や協力なしに学校運営は出来ないし、学校は存在できないと思うから
- 橋渡し役がいないと一方通行になる
- 高齢者と子どもたちの関わりは、〇〇の日などイベント感とその場かぎりの感じがしている。継続的な支援をしたいと感じている高齢者も多いのではないかと思う

- 地域の方で色々な手に職を持っている方、時間を持て余している方も沢山いると思う。子どもは親と学校だけで育てるのではなく、市政含め皆で育てて、たくさんの人と触れ合うことで視野を広げて生活ができる、安心して生活が出来ることが大切だと思う

「どちらとも言えない」と回答された理由（一部抜粋）

- 本当は必要なのだろうが、最近は、子どもの教育については、親が教育方針を持って当たっている家庭が多く、他人の口出しを嫌う傾向が強いし、苦情も心配
- 核家族化が進み、他人からの干渉を「良い」と感じる父兄が少ない。個人情報の問題も考えられるし、子どもたちに何かあった場合、責任が取れない
- たくさんの大人からいろんなことを学んでほしいと思う。また地域の大人が子どもたちを見守ったり、注意したりすることも大切だと思う。その一方で地域の繋がりが少ないので、どのような方が住んでみえるのか分からない。知らない方と子どもたちが関わることで、防犯面での心配もある
- 地域の住民と顔見知りになることができるのは良いことだが、保護者の立場からすると少し不安もあったり、子どもの安全面や保護者の考え方の違いにより、場合によっては逆効果となる可能性も考えられる
- クラブ活動や部活動で地域が関わることは教員の負担を下げるためにも必要と考えるが、保護者視点で考えると指導者が信頼できる人であるかどうかといった観点で選ばれているかは不安を感じる
- 学校が本当に地域との関わりを必要としているのか、真意がわからないことには地域としても協力ができない。本音を話し合う場がまずは必要
- 教育に地域住民を担い手にする必要性がよく分からない。教育という言葉一括りにせず、もう少し具体的な、地元について学ぶや赤ちゃんとの触れあいを通して子育て体験など教科以外での学びに参加する、ということであれば重要な気もする
- 中学校の部活動について、地域住民や保護者の負担が大きすぎると感じたことがあり、教育活動に関しても、あくまでも地域の協力であるということを忘れないでほしい
- やはり学校の先生が主になって地域住民は先生のサポートに徹するべきだと思う
- 地域住民が子どもたちの学校教育そのものに関わる事は、時に衝突を招く。地域住民が子どもたちにできることは、学校教育以外の「生きていく力の伝授」だけです
- 地域住民の存在は、あくまでスパイスの一つでしかないと思う。現状の地域と学校の関係では教職員がメインだと思う
- 信頼関係が前提。教員等職員の増員が基本と思う
- 子どもたちのためというより、教員や学校教育に携わる方々の負担を減らすために、地域の方が関わるのは良いと思う。ただ、それをボランティアといった形のやりがい搾取で忙しい現役世代の負担になるようなやり方は良くないと思う。子どもの教育をしっかりと考えるのであれば、有償で国や地域がお金を出すべき

- 子どもは地域全体で育てていくべきだと思う。両者が関わりあうことで、子どもだけでなく大人も成長するきっかけになると思う。ただ、仕事などで忙しく積極的に関われない人に非難の目が向くのはよくない
- 大事だと思うが、今の現状、学校は決められた指導要領をこなしていただくだけで精一杯で、子どもたちも習い事があったり、共働き世帯が増加しているため放課後は児童クラブで夕方まで過ごしている。みんなな時間と余裕が無いと思う
- 関わりは必要だと思うが、相手の負担が増える事にもなるため、一概には言えない
- お世話になったり見守ってもらっているといった感謝の気持ちが感じられないと、その善意も続かないし、無駄になってしまう
- 子どもたちにしてあげられることが具体的に見つからないし、あったとしても良い影響を与えられるか自信が持てない

「あまり重要だと思わない」「全く重要だと思わない」と回答された理由（一部抜粋）

- 地域住民の世代の相違による考え方や暮らし方の違い（その時代の教育方針の違いも含め）が大きすぎて、関わり方がバラバラにならないか心配である
- 子どもたちに様々な機会を与えたいと思うが、実際問題、協力できる時間もなく、プロに任せられるなら、プロに任せたい
- 地域住民の負担になる
- 教育自体に関わることは難しいが、社会的な経験を積んでもらうことは可能だと思う
- 地域住民は、教育より道徳的なことに関わるべきである

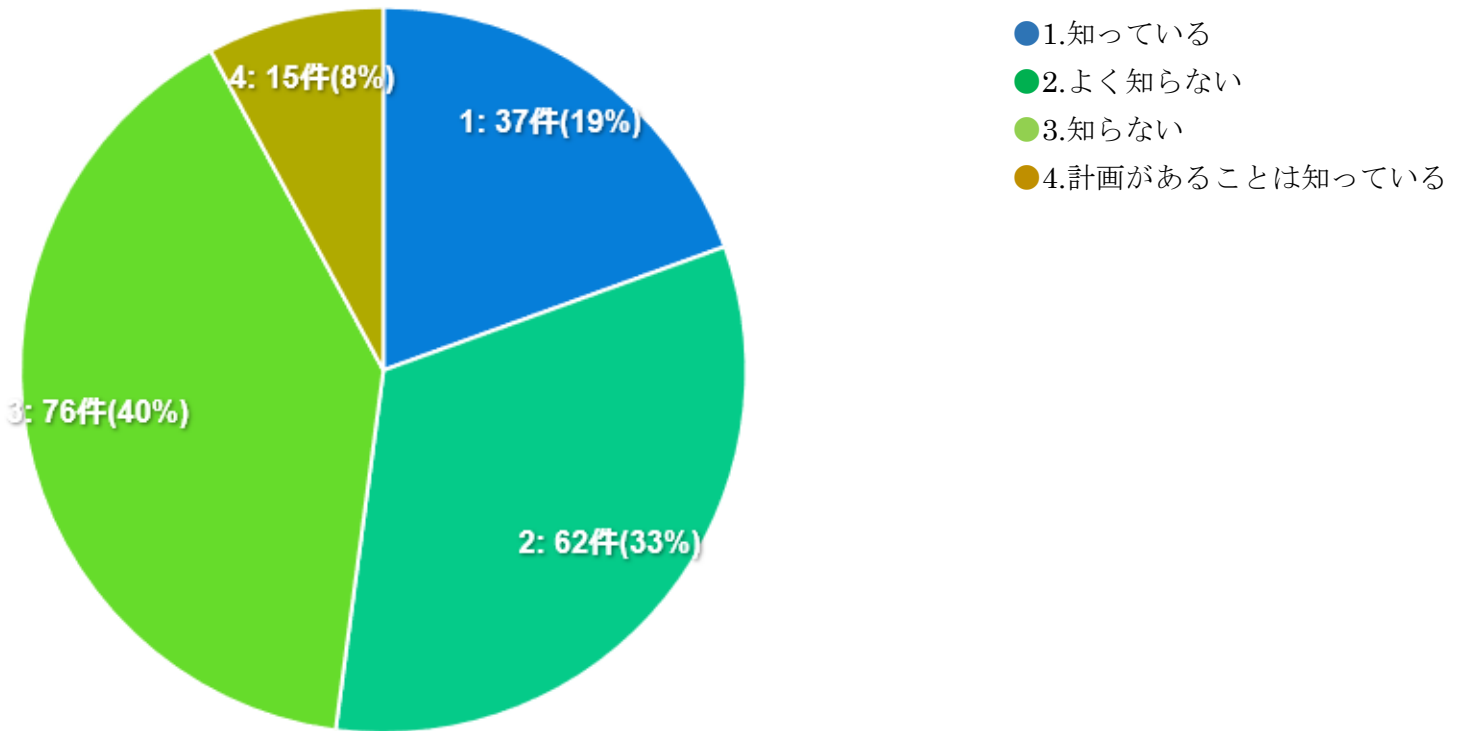
質問8.このような活動を通して、子どもたちが地域をよく知ったり地域の大人と関わる中で、あなたは子どもたちにどんなことを学んだり身につけてほしいと思いますか？ぜひ、お聞かせください。

自由記述（一部要約し抜粋）

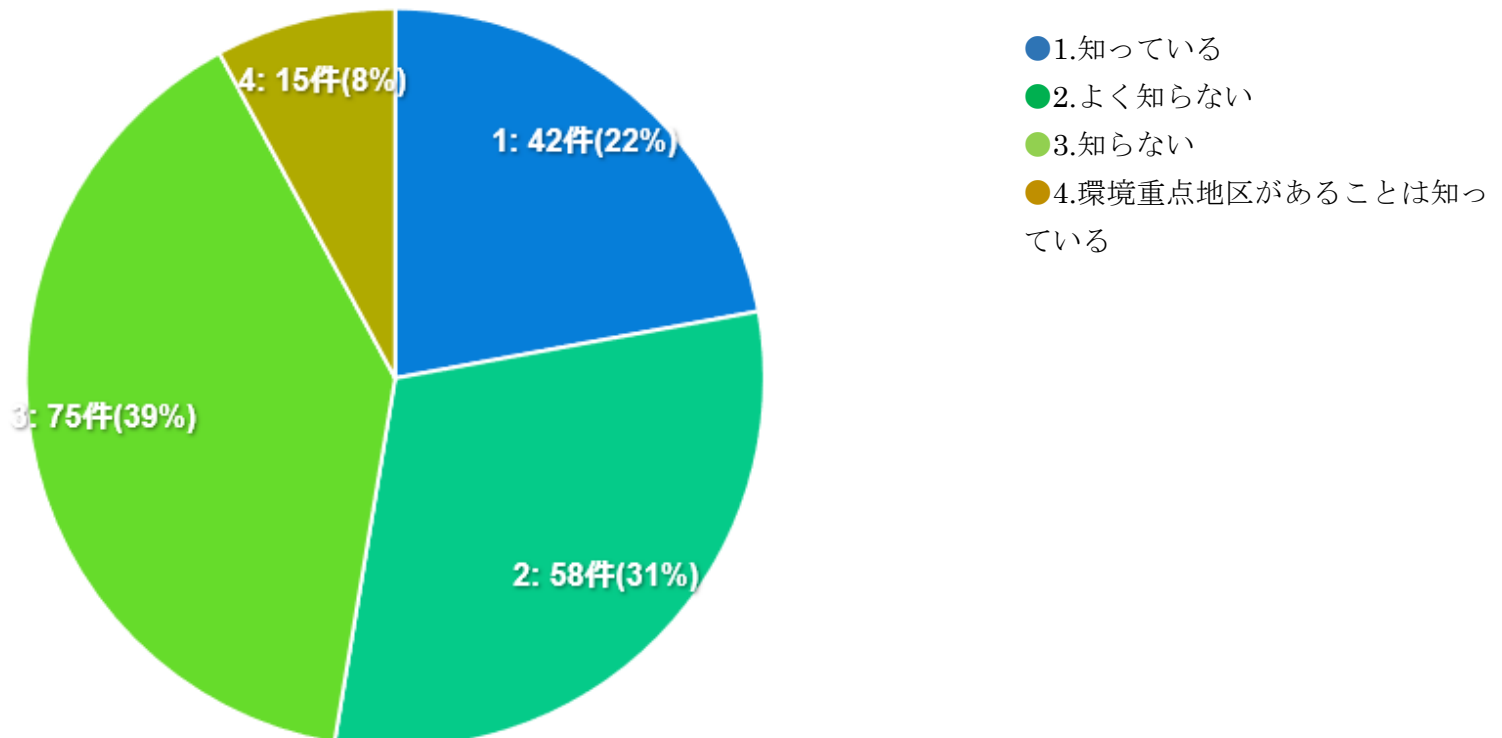
- 人を思いやる気持ち、人と繋がりを持つことの大切さ
- 多様性や、人の心、立場が違う人の気持ちが分かること
- 色々な年代の人との関わり方、自分とは違うコミュニティの人への理解
- 世代が違う人の意見を聞き吸収できる力
- 普段関わらない人、同年代以外ともコミュニケーションを取るスキル
- 将来にも活かせる社会性、協調性
- 地域、市民、国、世界など、広い視点で物事を考える力と自己を伝える発信力
- 自分の存在が大切な存在であるという実感
- 自己肯定感と他者への信頼
- 人を愛すること、人を尊重すること
- 地域の人みんなに見守られているという安心感
- 考え方の選択肢は、たくさんあるということ
- 前向きに生きること。得意や苦手があっても、生きていけること
- 自分の人生を自由に生きて良いということ
- 世界は広く、自分達の可能性は無限にあること。また違った世界や景色があること
- 色々な職業、生き方があることを知り、将来の選択肢を広げて行ってほしい
- 自分の夢ややりたいことへの興味を持つこと
- 自分の事を話す、表現する場所がいくつかあること
- 家庭以外にも、居心地のいいほっとできる居場所を見つけられること
- 地域の良さ、特色、歴史や偉人、他地域との違い、地域への愛着と誇り
- 地域に根付く職業、生活スタイル、生き方
- 地域課題に目を向けて考えることができる姿勢
- 自分達も地域、社会の一員であるという自覚。地域貢献できる役割
- 故郷として愛し、将来の岐阜を支えていく人材になること
- 人のためになれる大人になることが、自分も幸せになれること
- 自分がいつか大人になったとき、自分も同じように寄り添う心
- 日常的なあいさつがきちんとできること
- 大人やお年寄りを敬い、大切にすること
- 感謝する心。その感謝を将来返すこと
- 子どもたちの将来の支えとなるような良い思い出（体験）
- ふるさとの歴史や戦争体験など、保護者からは聞けないような昔のこと
- ゲームでは分からないリアルな体験

(2) 岐阜市環境基本計画の改定について（問 1～問 15）

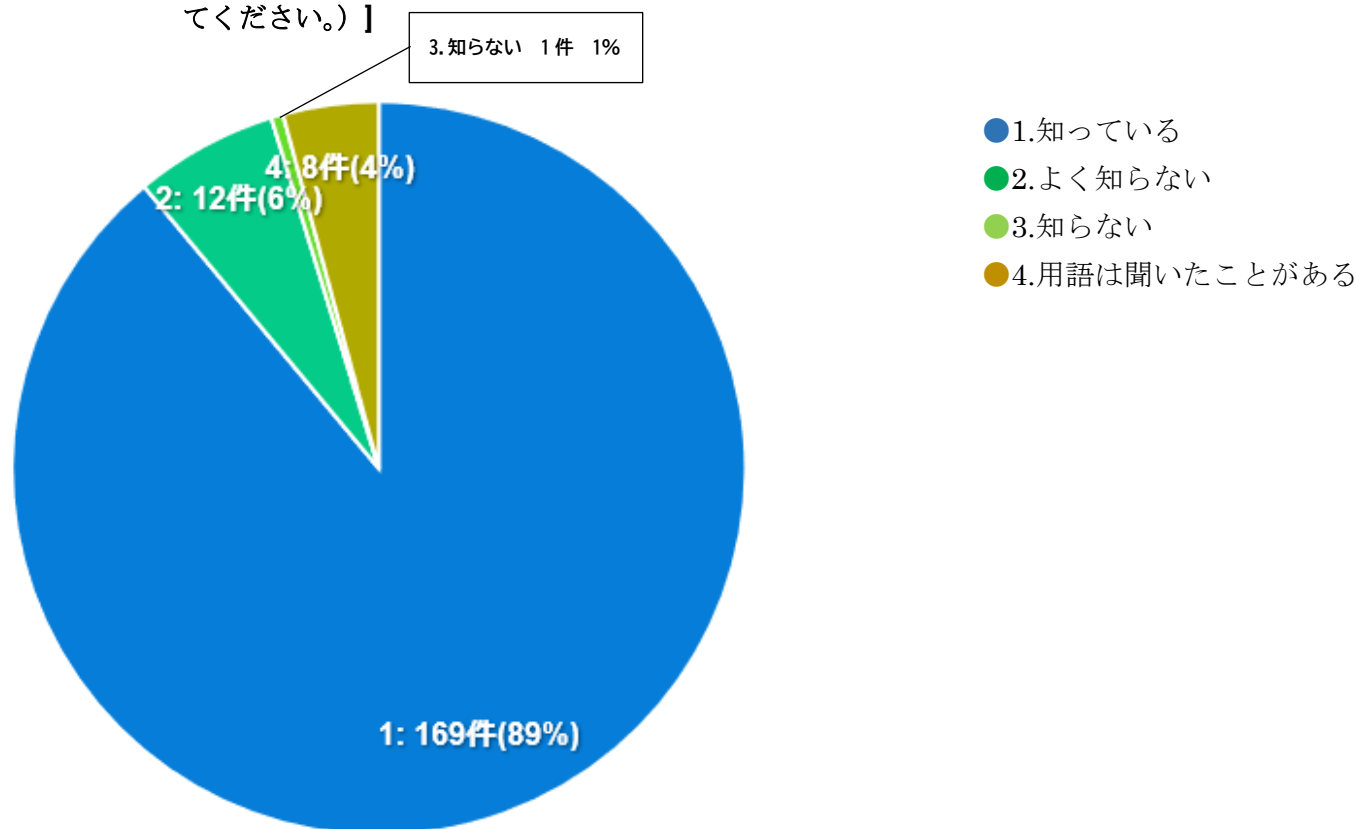
質問 1. 岐阜市では、自然との共生・共存や地球温暖化対策、ごみ減量などの取り組みをまとめた「岐阜市環境基本計画」を定めています。その内容を知っていますか。【（該当する番号 1 つに○をつけてください。）】



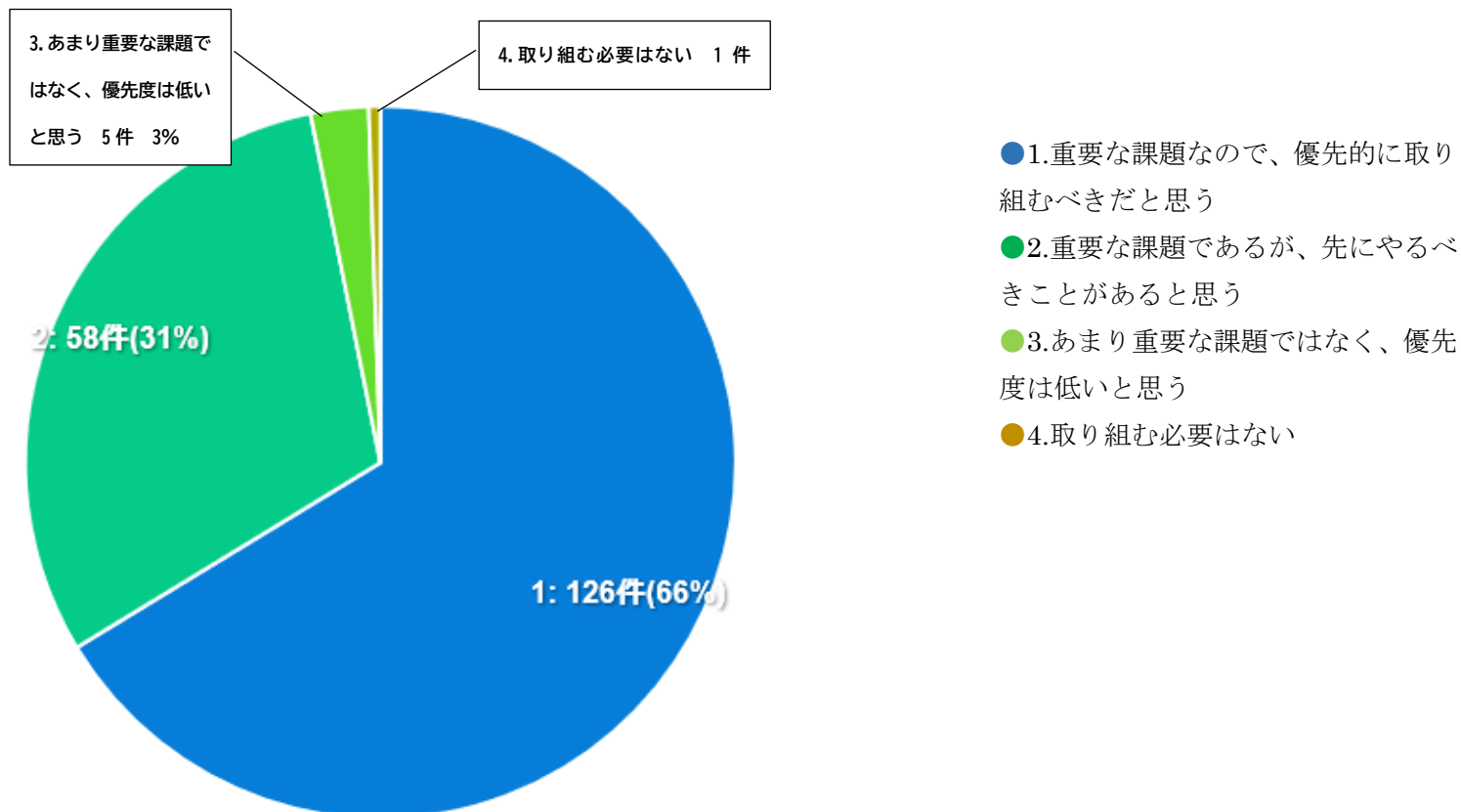
質問 2. 岐阜市では、長良川、金華山、百々ヶ峰、中心市街地の 4 つを「環境重点地区」としていますが、その地区を知っていますか。（環境重点地区：環境の保全及び創出について重点的に取り組む地区のことで、自然豊かな生物多様性を保全する区域や低炭素都市のまちづくりを推進する区域を設定）【（該当する番号 1 つに○をつけてください。）】



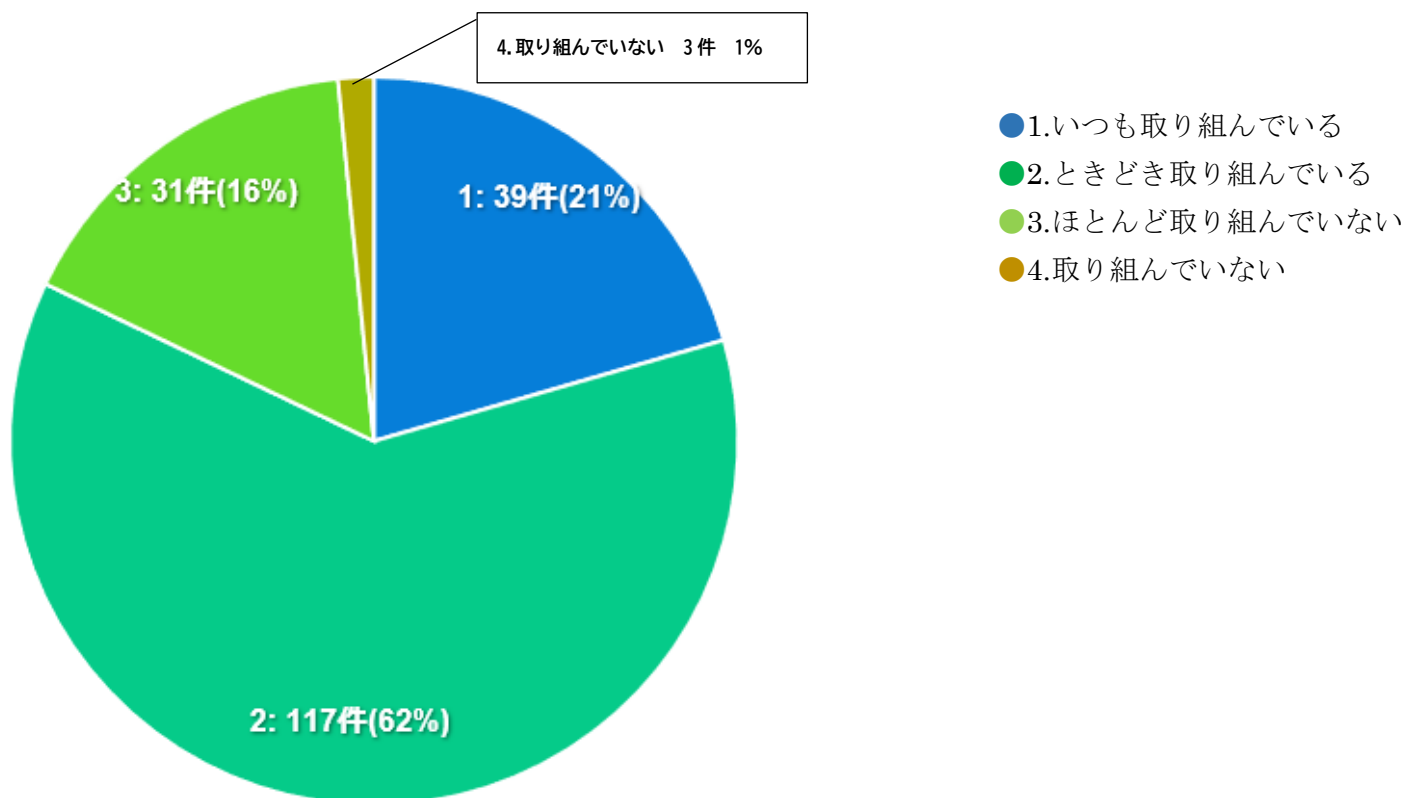
質問3. 「地球温暖化」がどのような現象か知っていますか。 (地球温暖化：人間の社会経済活動で化石燃料を使用することにより、二酸化炭素 (CO₂) などの温室効果ガスが大量に排出され、地球全体の平均気温が上昇し、環境が損なわれること) 【(該当する番号1つに○をつけてください。)】



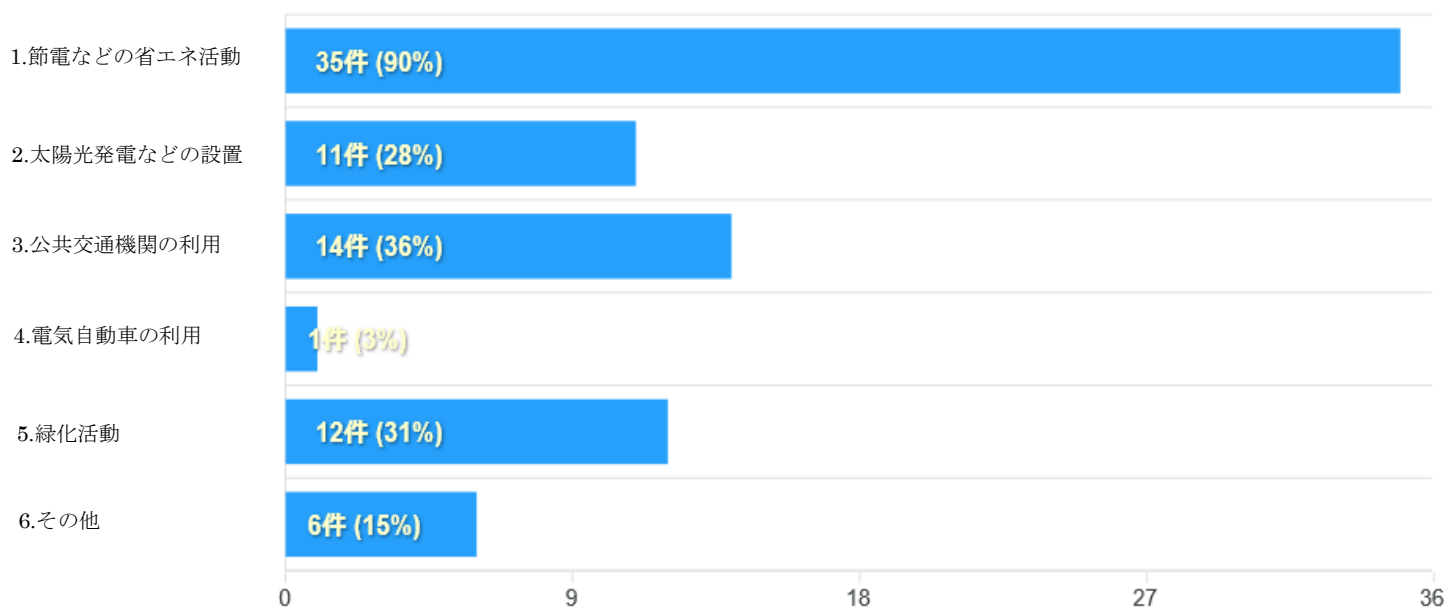
質問4. 地球温暖化対策に取り組むことについて、あなたはどのように考えていますか。 【(該当する番号1つに○をつけてください。)】



質問5. 身近な生活の中で、地球温暖化対策に役立つ行動に取り組んでいますか。[(該当する番号1つに○をつけてください。)]



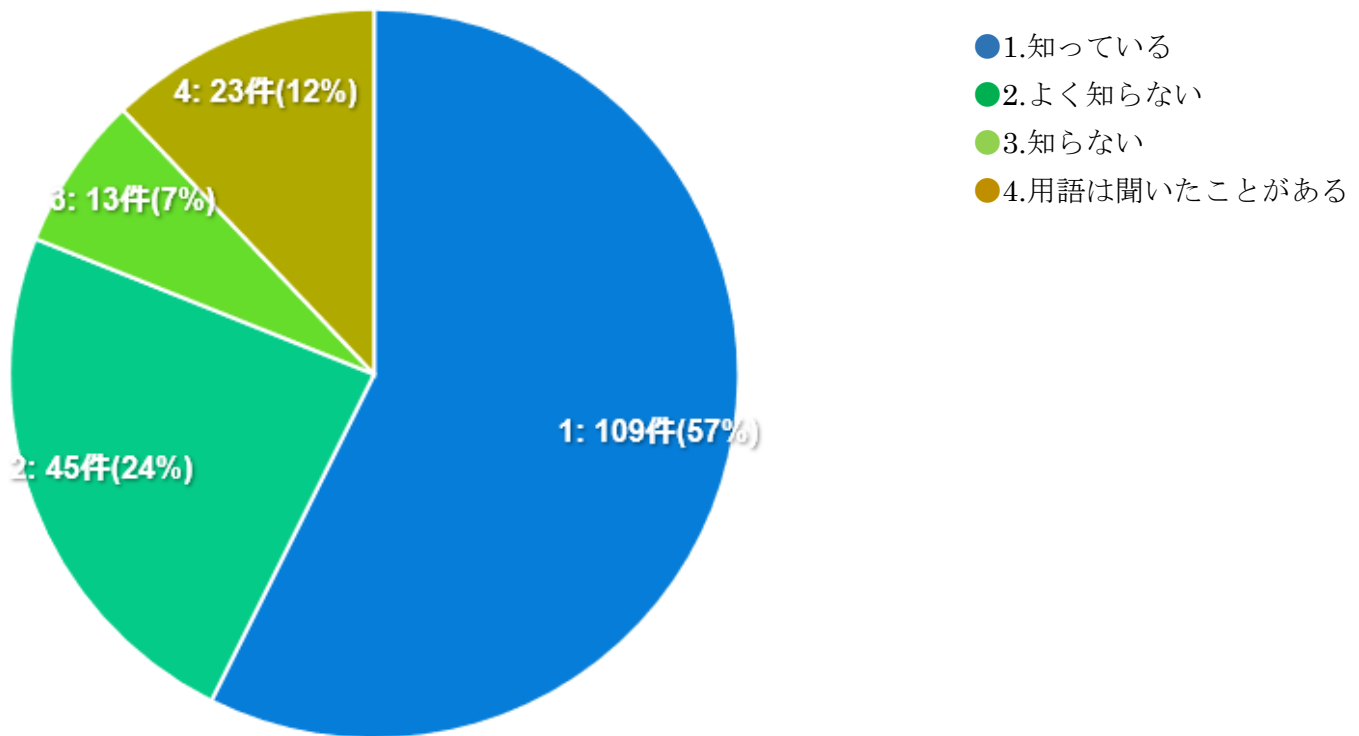
質問5で取り組んでいると答えた方にお聞きします。具体的に何に取り組んでいますか。[(複数回答可)]



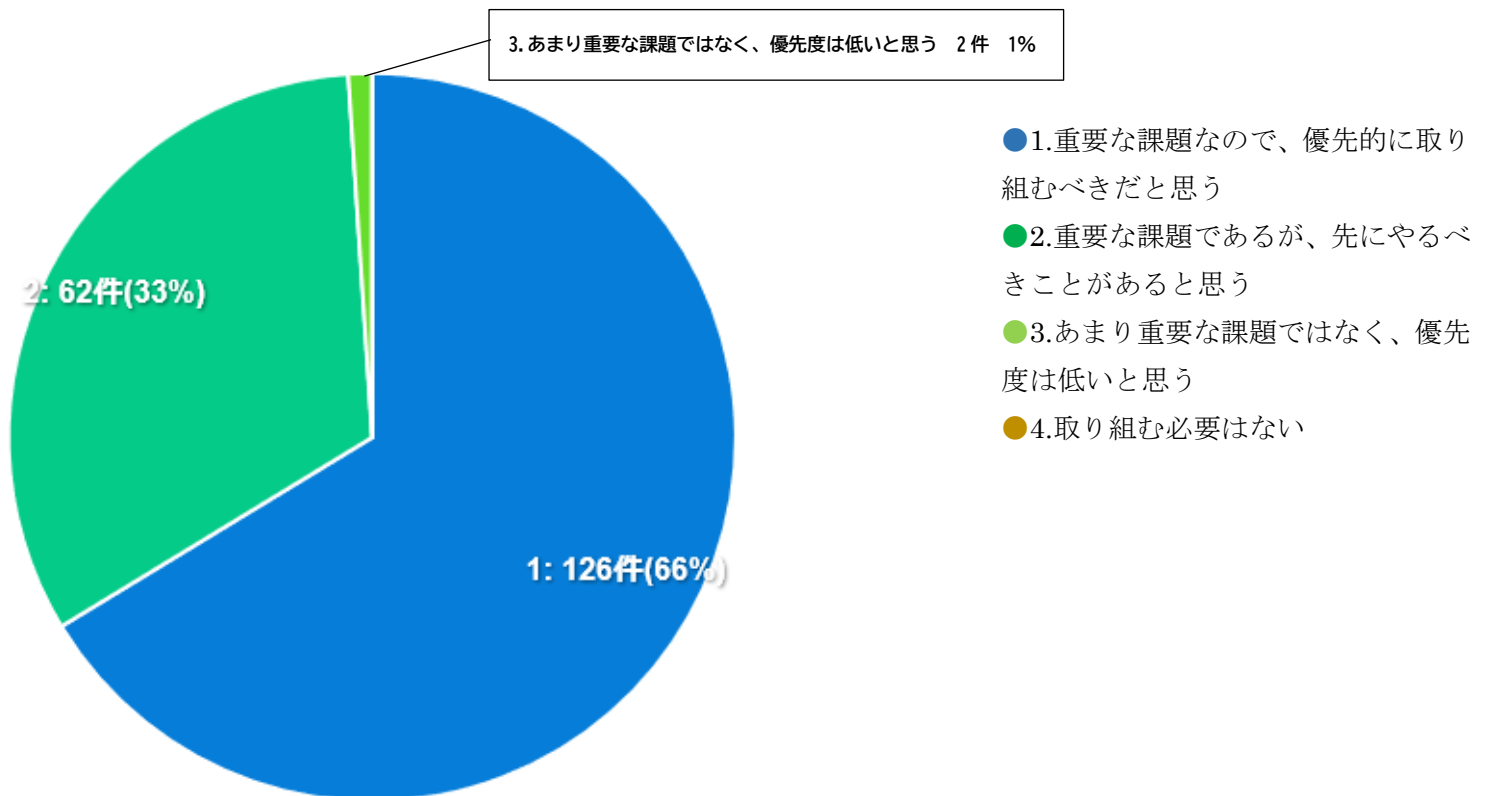
その他 (一部抜粋)

- レジ袋を貰わない
- いろんなものをリサイクルして使う
- プラスチック商品を極力避ける

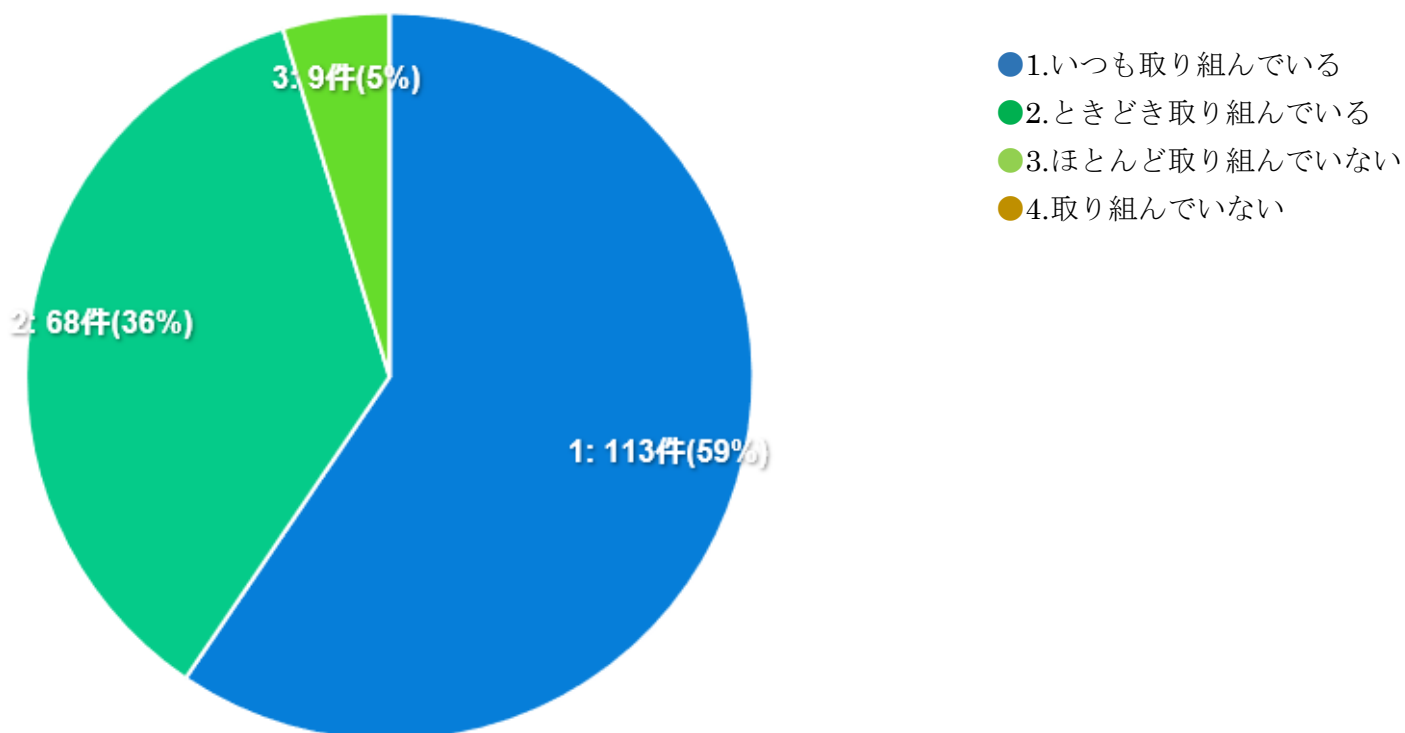
質問6. 「循環型社会」とはどのような社会のことか知っていますか。 (循環型社会：限られた資源の消費抑制やリサイクルにより、環境負荷の低減を図る社会のこと) 【(該当する番号1つに○をつけてください。)】



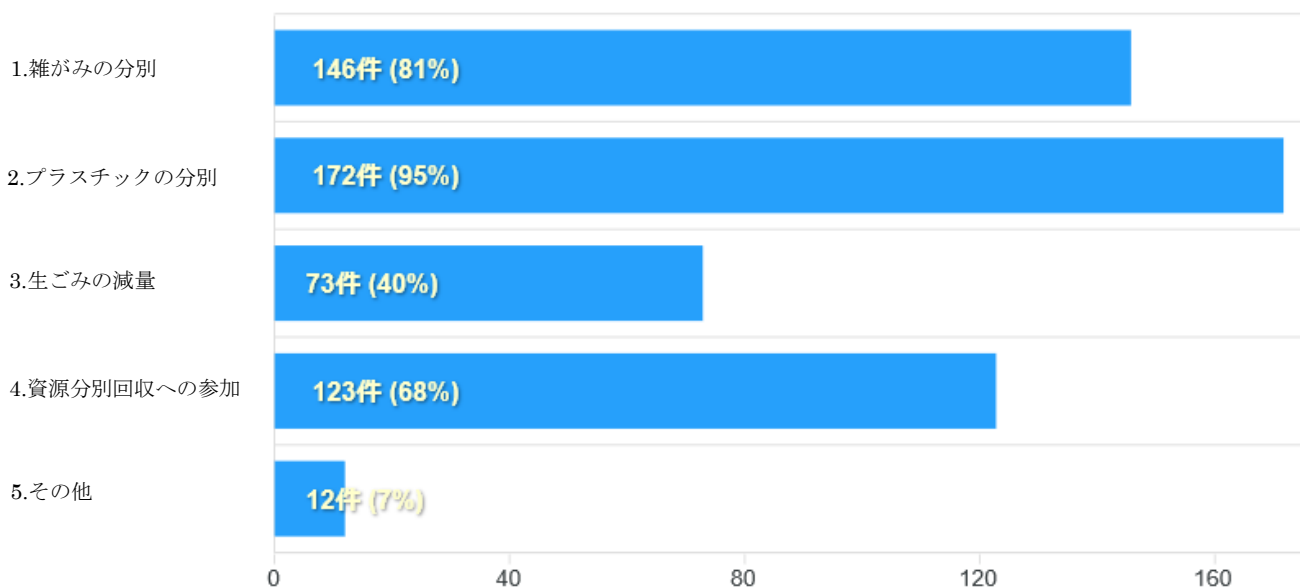
質問7. ごみ減量に取り組むことについて、あなたはどのように考えていますか。【(該当する番号1つに○をつけてください。)】



質問8. 資源物のリサイクルなど、ごみ減量に取り組んでいますか。【(該当する番号1つに○をつけてください。)】



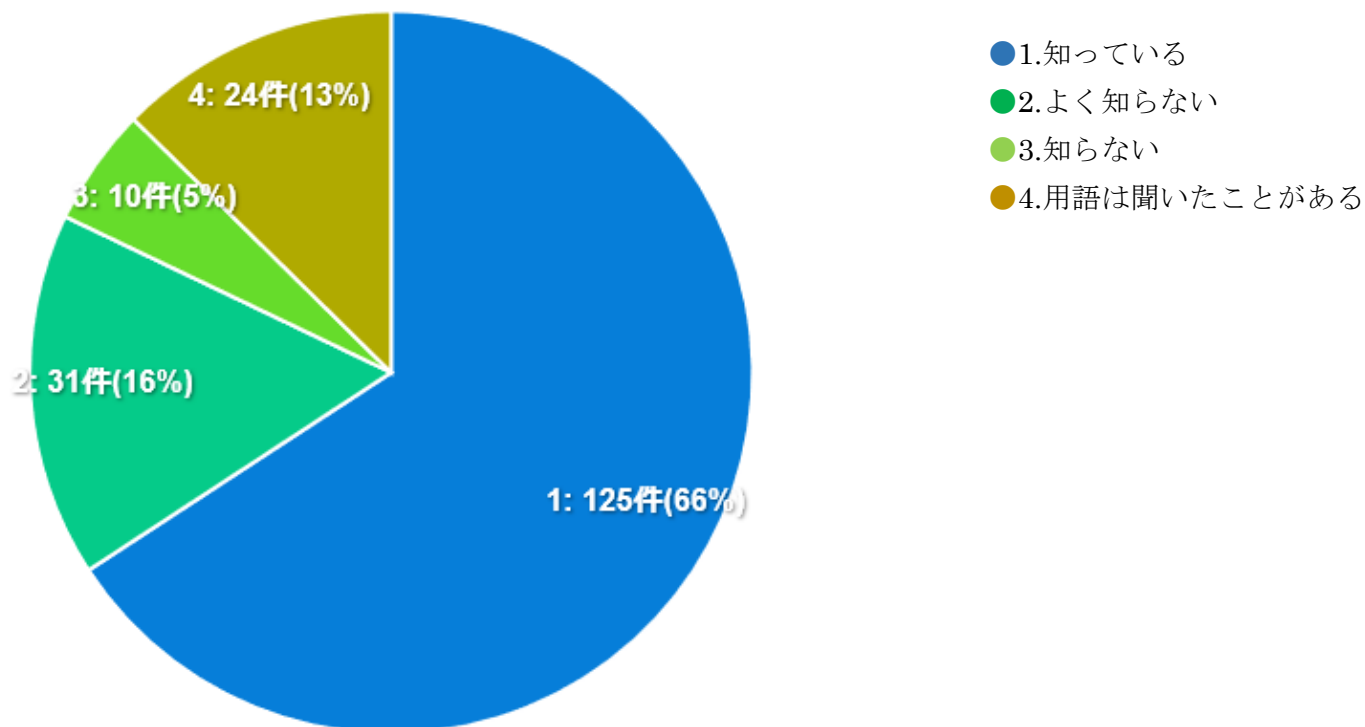
質問8で取り組んでいると答えた方にお聞きします。具体的に何に取り組んでいますか。【(複数回答可)】



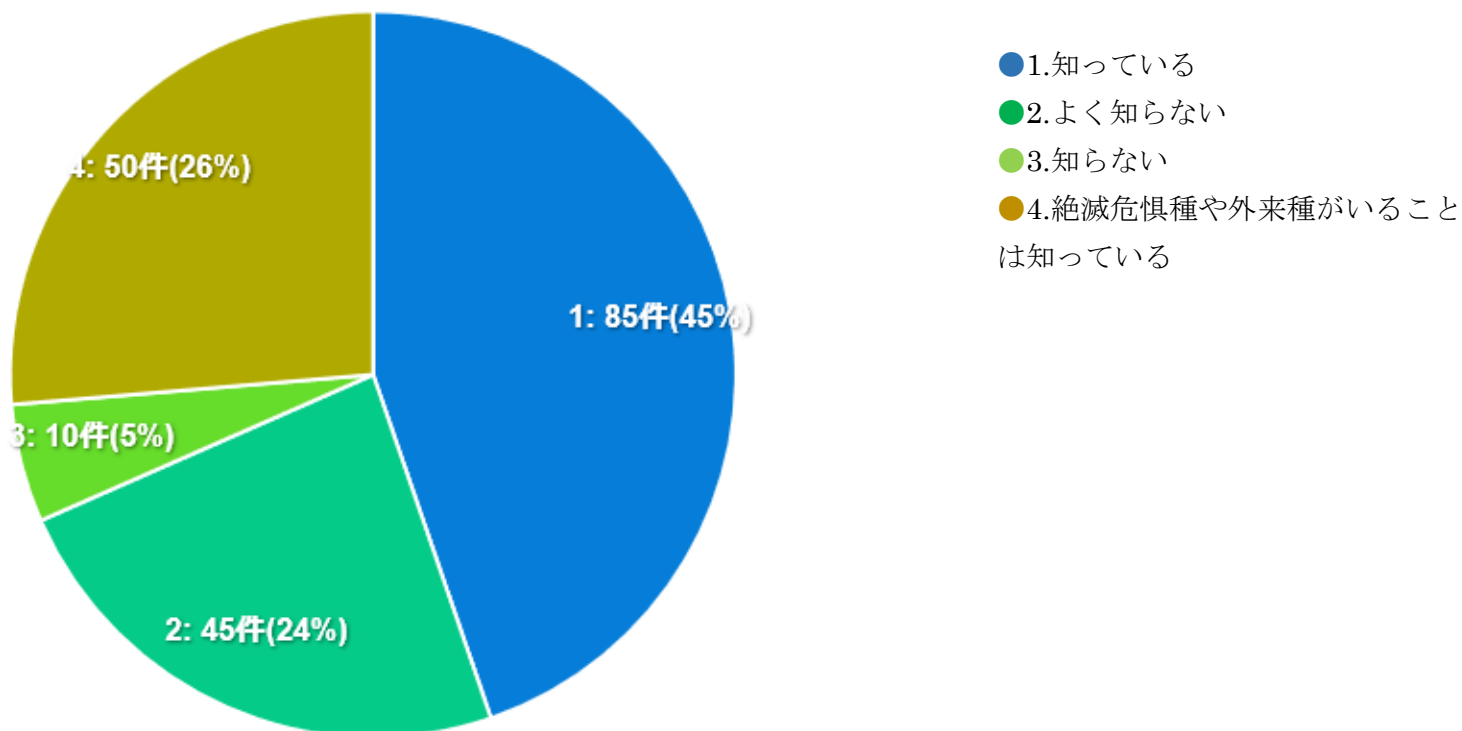
その他 (一部抜粋)

- 不要になったものを廃棄ではなく、リサイクルやフリーマーケット(アプリも含む)などで譲る
- 質の良いものを長く使うようにしている
- 分別は当然ながら分別前の unnecessary 資源の削減
- 生ごみ堆肥活動

質問9. 地球上の様々な場所で、様々な環境に適応したたくさんの生きものが暮らしていることを「生物多様性」といいますが、知っていますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

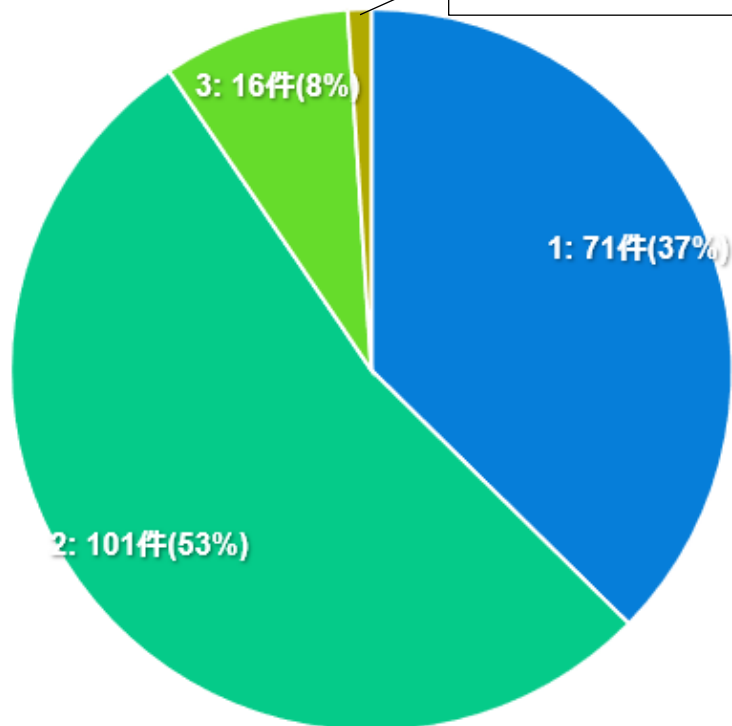


質問10. 日本に生育・生息する野生の動植物のうち、絶滅が危惧される動植物や、人為的影響で侵入した外来種を、具体的に知っていますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)



質問 1 1. 生物多様性の保全に取り組むことについて、あなたはどのように考えていますか。(該当する番号 1 つに○をつけてください。)

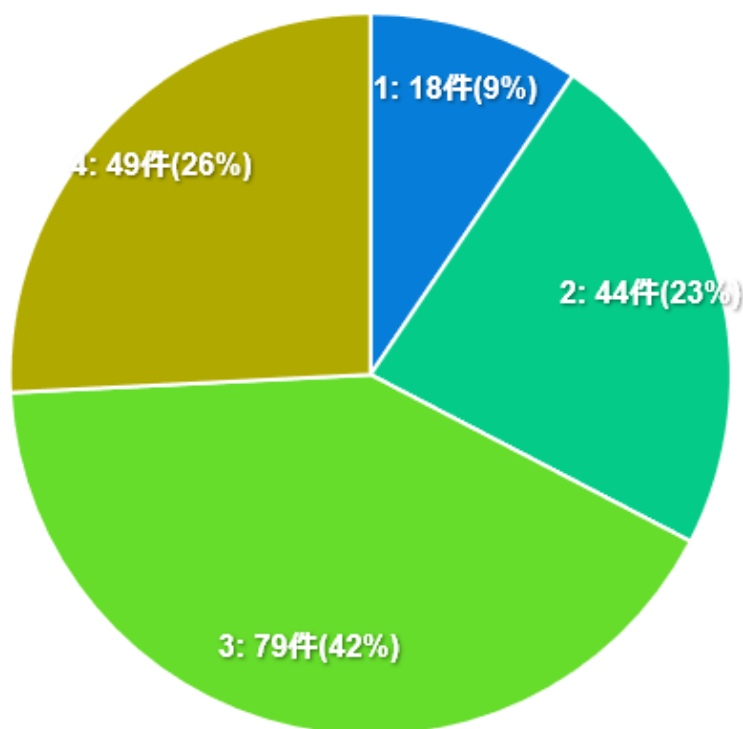
4. 取り組む必要はない 2件 1%



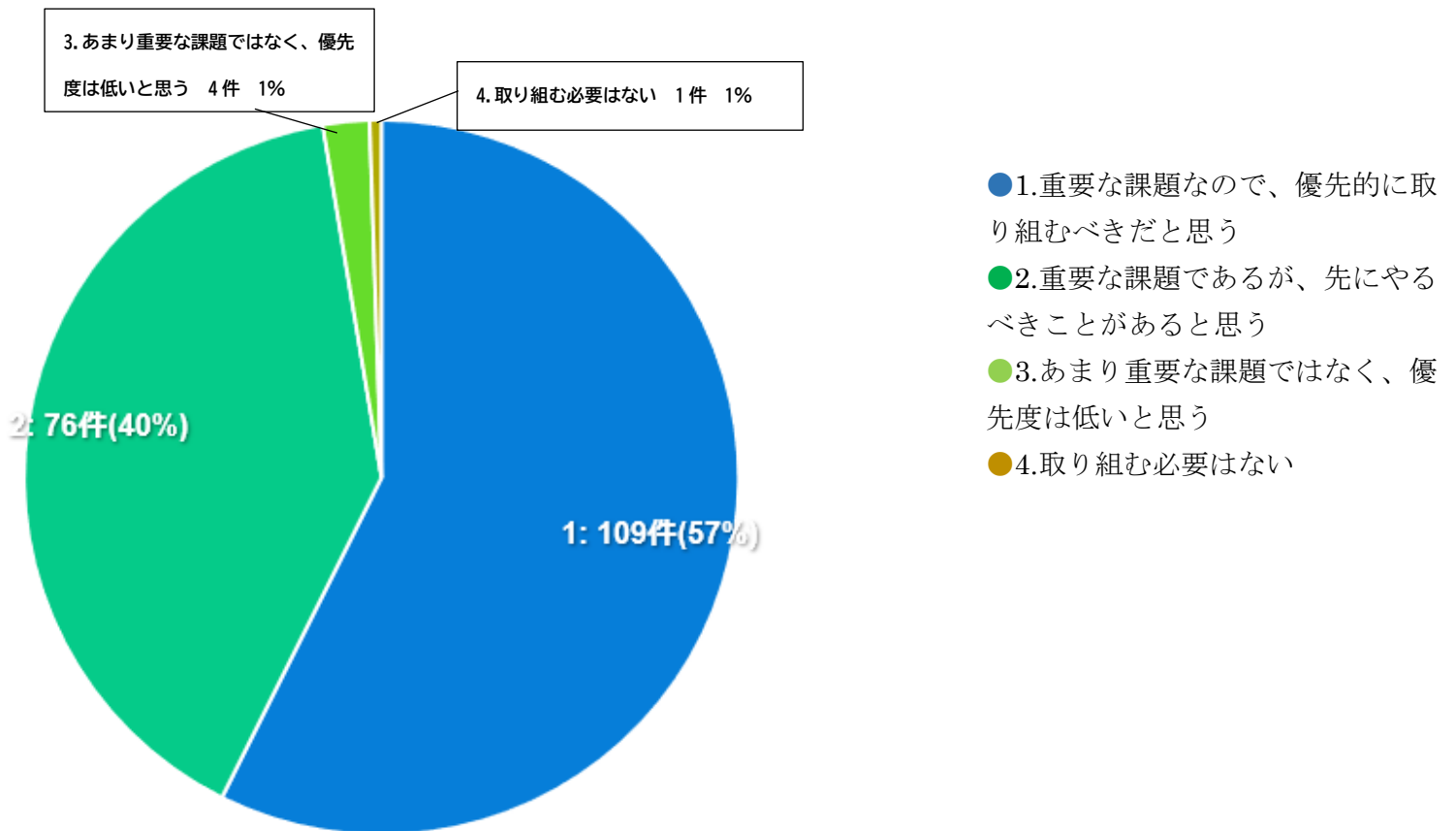
- 1. 重要な課題なので、優先的に取り組むべきだと思う
- 2. 重要な課題であるが、先にやるべきことがあると思う
- 3. あまり重要な課題ではなく、優先度は低いと思う
- 4. 取り組む必要はない

質問 1 2. 河川の清掃や生物の保護など、自然を守る取り組みをしていますか。(該当する番号 1 つに○をつけてください。)

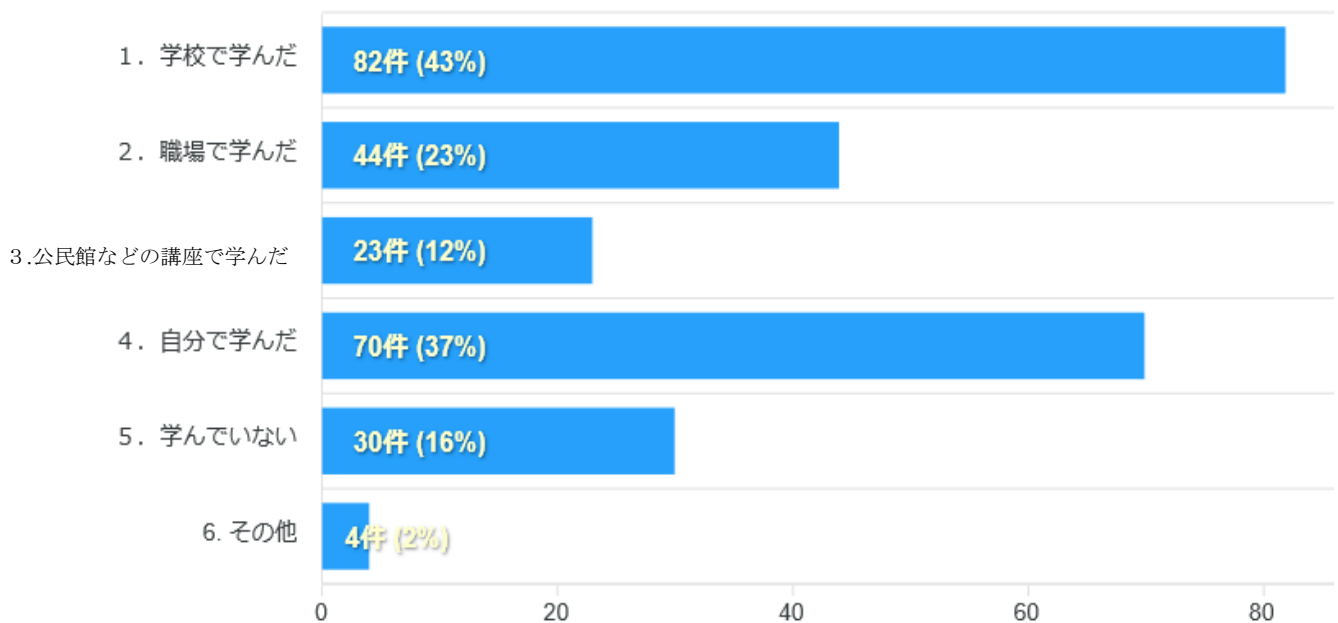
- 1. している
- 2. ときどきしている
- 3. ほとんどしていない
- 4. まったくしていない



質問13. 「環境教育」について、あなたはどのように考えていますか。（環境教育：家庭・学校・職場・地域などで、環境と社会とのつながりや、環境の保全について理解を深める教育や学習のこと）（該当する番号1つに○をつけてください。）



質問14. これまで環境について、話を聞いたり、学んだりしたことがありますか。（複数回答可）



その他（一部抜粋）

- 子どもが通う幼稚園で子どもを通して学んだ
- テレビや広報誌などあらゆる報道媒体
- 図書館の本やイベント

質問15. 岐阜市の環境をよくするために、どうしたらいいと思いますか。岐阜市の取り組みに関する思いなど、自由にお書きください。

- 一人一人が生活の中で出来る事から始める。
- いきなり何とかしなければと取り組むことは長く続けることができない。また、急いで結果を求める活動でも継続し続けることは難しい。結果として地道に活動できる啓発活動は欠かせない。
- 岐阜市民は他地域に比べて、まだ意識が低いと感じます。岐阜市民が意識できるようなキャッチコピー、環境改善のキャラクター作成、イベント等を行い、意識付けしていく、意識を高めていく事が重要かと思います。また、学校や企業と協働してのイベント、楽しめる講習会などを継続して取り行っていくと良いのではないかと思います。
- 市民参加の啓発活動を行い広くアピールしていく。
- 自然との関わりを増やすキャンペーンや体験会などのイベントがあると参加しやすいです。
- 保全活動の積極的な宣伝・アピール。長良川沿線に住んでおり、機会があれば参加したいが、後日、新聞などで活動があった事を知る事が多い。
- ゴミ分別表(細かい内容)が欲しいです。いつもネットで調べますが、他の自治体の分別表が出てきたり、岐阜では載ってないのもあり、とても分かりにくいので。
- ゴミの分別の良い例悪い例を具体的に知りたい。良かれと思ってやっている事が意外と間違っていたりする事も。(人に注意もしにくい)
- 資源分別の仕方を、年度の初めだけでなく、もっと頻繁にお知らせすると思う。
- 資源ごみの出し方が分かりにくい。粗大ゴミが特に不便。ゴミの出し方のお知らせ方法、回収場所など改善が必要。
- ゴミの分別の仕方が変わったけれど、まだプラゴミがしっかり分別されていないと感じる。みんながきちんと分別してゴミを出そうと心がけることが大切だと思う。
- 最近やっとプラスチックゴミの分別が始まったのはいいと思います。ただまだその重要性を知っていない方も多いため、このゴミの分別によってどう変わるのかを具体的に広報誌などでも宣伝してほしい。個々の意識が高まるように工夫してほしい。
- 4月から始まった「プラゴミ回収」ですが、回収されたプラがどのように利用され、また、課題は何かなどを広報することによって、一層、効果があると思う。
- 「雑がみ」の回収について、まだまだ分別が解りにくいです。
- 普通ごみの中身をもっと厳しく規制してほしい、ごみ袋のこの先有料化を早く考えた方がよい。
- ゴミ袋有料化等で、予算を少しでも積上げ。リサイクル製品への補助金等で、価格を安くさせ、購入しやすくする。
- リサイクルステーションなどでポイント制度を取り入れる。
- 環境に良いことをしたらポイントがもらえるなどご褒美があると良い。
- エコポイントの充実と成果に見合う報酬の設定。既存のポイント事業者との連携で、広くお店で使えるポイント制度だと、もっと広がって行くと思う。
- 長良川清掃活動を全町内から参加してゴミ拾いをする。
- 新岐阜や柳ヶ瀬を中心に活気を持たせることで、中心部に移動する公共交通網の利用客を増やし、車移動を減らす。
- 幼稚園、保育園、未就園児など、小さな頃から環境について五感で体験できる機会が増えるといいなと思います。正直なところ、私自身は生物多様性をあまり身近に感じておらず、どこか他人事に感じてしまう気持ちもあります。どのような行動が問題なのか、解決するためにすべきことがあるのか、子供と一緒に学んでいきたいと思いました。
- 小学生ぐらいから環境に関する授業(カワゲラウォッチングなどのフィールドワーク)を増やす。
- 子供に岐阜の自然は素晴らしいことを伝え、守るための学習をさせる。親世代も、今の自分達だけではなく、未来を生きる子どもたちのために、取り組むことを促す。

7 今後に向けて

(1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について（問1～問8）

教育委員会では、今年度、現在取組みを進めている「第3期岐阜市教育振興基本計画（計画期間：平成30年度から令和4年度まで）」が計画期間の最終年度を迎えることから、新たな次期計画となる「第4期岐阜市教育振興基本計画（計画期間：令和5年度から令和9年度まで）」の策定に取り組んでいます。

今回の調査結果からは、本市における子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について、地域の教育力やコミュニティ・スクールの認知度が低調であるなどの課題が示されるとともに、潜在的に参加意欲を持つ地域の貴重な人材を十分に生かしきれていないのではということが推察されます。

この調査結果を踏まえ、今後は地域と学校の協働体制をより一層深めていくとともに、より多くの大人が子どもたちの健やかな学びや成長に携わっていただくことができるよう、活動機会の拡充及び活動への参画を促すコーディネート機能の充実に、努めてまいります。

(2) 岐阜市環境基本計画の改定について（問1～問15）

岐阜市環境基本計画は、平成10年3月に策定して以来、改定を重ね、現在は平成30年度から令和4年度までを期間とする第4次計画に基づき取組みを進めるとともに、令和5年度から9年度までの第5次計画への改定を予定しています。

今回の調査では、環境基本計画自体の認知度は低いものの、環境問題に対しては、重要な課題であるという認識が、「地球温暖化対策」が97%、「ごみ減量」が99%、「生物多様性の保全」が90%、「環境教育」が97%と、いずれも9割以上であり、関心の高さが見受けられました。

調査の結果を受けて、改定予定の環境基本計画にそれぞれの課題について明記し、取組みを推進するとともに、市民にもわかりやすく親しみやすい計画になるよう努めてまいります。あわせて、計画や様々な取組みに関する周知・広報にも力を入れてまいります。

お問い合わせ先

(1) 子どもたちの学びや成長を支える地域と学校の協働について（問1～問8）

教育委員会 教育政策課 TEL：058-214-7109／MAIL：kyouiku-sei@city.gifu.gifu.jp

(2) 岐阜市環境基本計画の改定について（問1～問15）

環境部 環境政策課 TEL：058-214-2175／MAIL：kankyo-sei@city.gifu.gifu.jp